



# Real-Time Monitoring の設定

この章では、Serviceability Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の設定手順を説明します。

次のトピックは、Real-Time Monitoring Tool のパフォーマンス モニタリング設定について説明します。

- [Real-Time Monitoring](#) のロード (P.12-2)
- [RTMT](#) のデフォルト設定 (P.12-7)
- [構成プロファイルの作成](#) (P.12-9)
- [RTMT ウィンドウのコンポーネント](#) (P.12-11)
- [View タブの Summary カテゴリの表示](#) (P.12-14)
- [View タブの Server カテゴリの表示](#) (P.12-16)
- [View タブの CallProcess カテゴリの表示](#) (P.12-22)
- [View タブの Service カテゴリの表示](#) (P.12-30)
- [View タブの Device カテゴリの表示](#) (P.12-37)
- [View タブの CTI カテゴリの表示](#) (P.12-52)
- [CTI Search](#) の使用 (P.12-54)
- [パフォーマンス モニタリングの概要](#) (P.12-63)
- [カウンタのプロパティの概要](#) (P.12-75)
- [Alert タブの Alert Central の概要](#) (P.12-81)
- [カウンタのアラート設定値](#) (P.12-108)

## Real-Time Monitoring のロード

ここでは、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のロード方法を説明します。Cisco CallManager Administration または Cisco CallManager Serviceability の Application メニューの下にある Install Plugins ページから RTMT をインストールし、その後 Windows のデスクトップにある RTMT ショートカットから RTMT を起動できます。プラグインの設定については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) Cisco CallManager Serviceability プログラムでは、Tools メニューの下にも RTMT が表示されています。ただし、この場所から RTMT を起動すると、Install Plugins メニューに誘導されます。

### 手順

- ステップ 1 Windows デスクトップで、Real-Time Monitoring Tool アイコンをダブルクリックします。  
  
Real-Time Monitoring Tool 起動ウィンドウが表示されます。[図 12-3](#) を参照してください。
- ステップ 2 Host IP Address フィールドに、デジタル IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- ステップ 3 User Name フィールドに、ユーザ名を入力します。
- ステップ 4 Password フィールドに、パスワードを入力します。



(注) RTMT 用の認証ユーザ名とパスワードが、Cisco CallManager のインストールに使用したものと同一であることを確認してください。認証に失敗した場合、またはサーバに到達できない場合は、サーバと認証の詳細を再入力するように求められます。また、**Cancel** ボタンをクリックして、アプリケーションを終了することもできます。認証に成功した場合は、RTMT により、ローカル キャッシュまたはリモート ノードからモニタリング モジュールが起動されます。リモート ノードは、バックエンドの Cisco CallManager バージョンと一致するモニタリング モジュールがローカル キャッシュに含まれていない場合に使用されます。

ステップ 5 Port フィールドに、ポート番号を入力します。

ステップ 6 HTTPS 対応のサーバに接続するには、**Secure Connection** チェックボックスをオンにします。



(注) 接続しようとしている Cisco CallManager クラスタ内のサーバが HTTPS に対応している場合、ツールにアクセスするには **Secure Connection** チェックボックスをオンにする必要があります。



(注) Netscape 4.79 およびアンダースコア ( \_ ) を含むホスト名を使用してアプリケーションをブラウズする場合は、HTTPS は HTTPS 対応アプリケーションには機能しません。このような場合、次のメッセージが表示されることがあります。「The security library has encountered an improperly formatted DER-encoded message.」このメッセージが表示された場合は、**OK** をクリックします。

このエラーが発生するのは、HTTPS サービスを使用可能にする証明書で、証明書の件名にホスト名が使用されているためです。Netscape 4.79 は件名に含まれるアンダースコアを無効な文字とみなすため、HTTPS は機能しません。

HTTPS のサポートが必要な場合は、Internet Explorer を使用してください。Netscape 4.79 とホスト名を使用してアプリケーションにアクセスするには、HTTPS を無効にしてください（『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照）。

## Real-Time Monitoring のロード

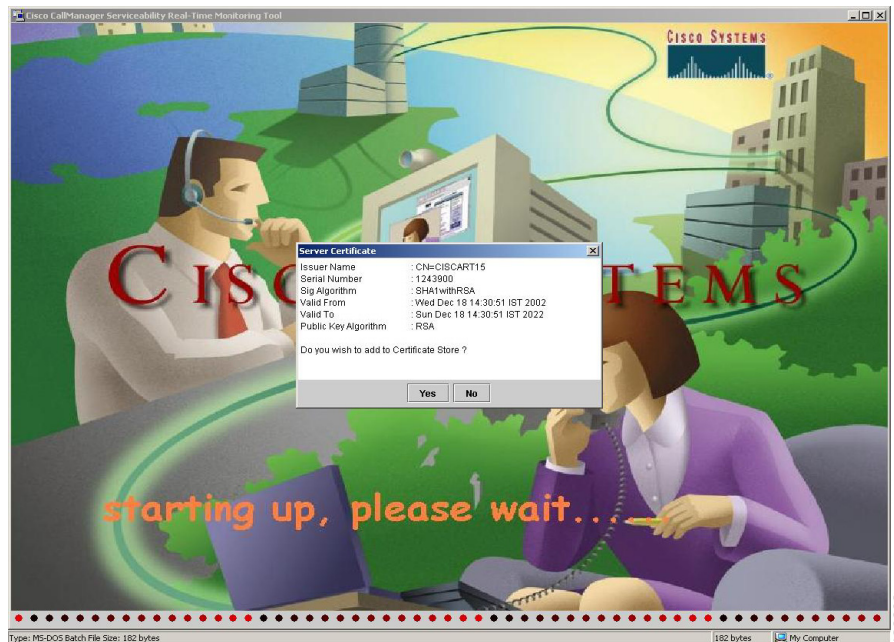
ステップ 7 **OK** をクリックします。

ステップ 8 HTTPS 対応の Cisco CallManager クラスタ内のサーバに初めて接続する場合、サーバの証明書がセキュアでない可能性があることを示すダイアログボックスが表示されます。

RTMT オンライン ヘルプにアクセスすると、Security Alert ダイアログボックスが表示されます。コンピュータに証明書をインストールするまで、オンラインヘルプにアクセスするたびに、このダイアログボックスが表示されます。セキュリティ証明書をインストールせずに続行するには、**Yes** をクリックします。セキュリティ証明書をインストールするには、P.1-5 の「[Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer \(HTTPS\) の使用方法](#)」を参照してください。

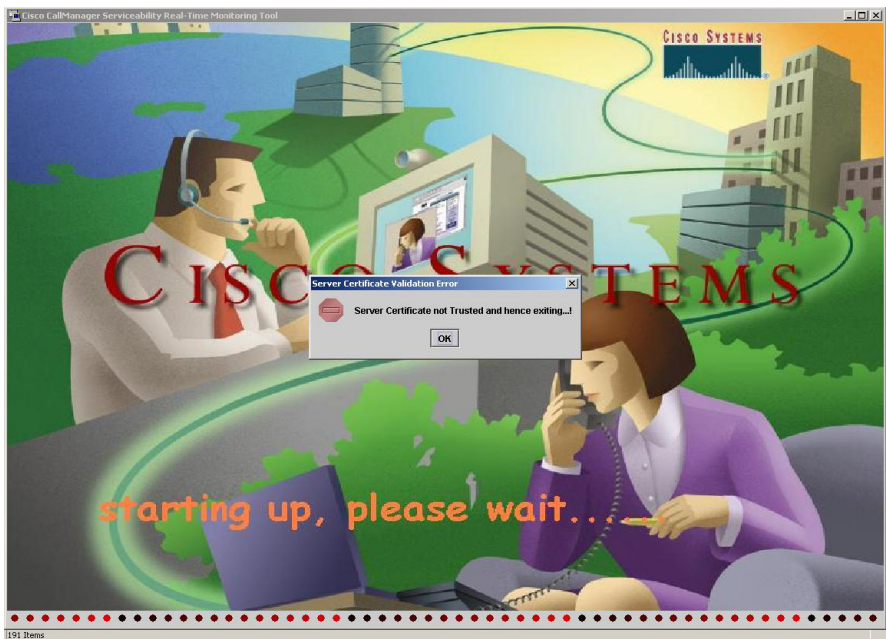
ステップ 9 サーバ証明書を信頼する場合は、ダイアログボックスで **Yes** をクリックします。[図 12-1](#) を参照してください。

図 12-1 RTMT Server Certificate ダイアログボックス



ステップ 10 証明書を信頼しない場合は、**No** をクリックします。図 12-2 を参照してください。

図 12-2 RTMT Server Certificate Rejection ダイアログボックス



認証が成功すると、RTMT ウィンドウが開き、デフォルト設定が表示されます。詳細については、P.12-9 の「構成プロファイルの作成」を参照してください。

ステップ 11 **OK** をクリックします。



(注) Select Configuration ウィンドウに表示されているコンフィギュレーションを使用しない場合は、**Cancel** ボタンをクリックします。構成プロファイルを作成するには、P.12-9 の「構成プロファイルの作成」を参照してください。

選択したコンフィギュレーションが表示されます。

**関連項目**

- [RTMT のデフォルト設定 \(P.12-7\)](#)
- [構成プロファイルの作成 \(P.12-9\)](#)
- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)

## RTMT のデフォルト設定

RTMT を初めてロードすると、CM-Default という名前のデフォルト設定が適用されます。CM-Default は動的に作成され、Cisco CallManager の全ノードにある登録済みの電話機をすべてモニタします。クラスタに 5 つの Cisco CallManager 設定ノードがある場合、CM-Default は Cisco CallManager クラスタ内の各ノードの登録済み電話機すべて、進行中のコール、およびアクティブなゲートウェイポートとチャンネルを表示します。図 12-4 を参照してください。

独自の構成プロファイルを作成する方法については、P.12-9 の「構成プロファイルの作成」を参照してください。

図 12-3 は、RTMT ログインウィンドウの例を示しています。

図 12-3 RTMT ログインウィンドウ

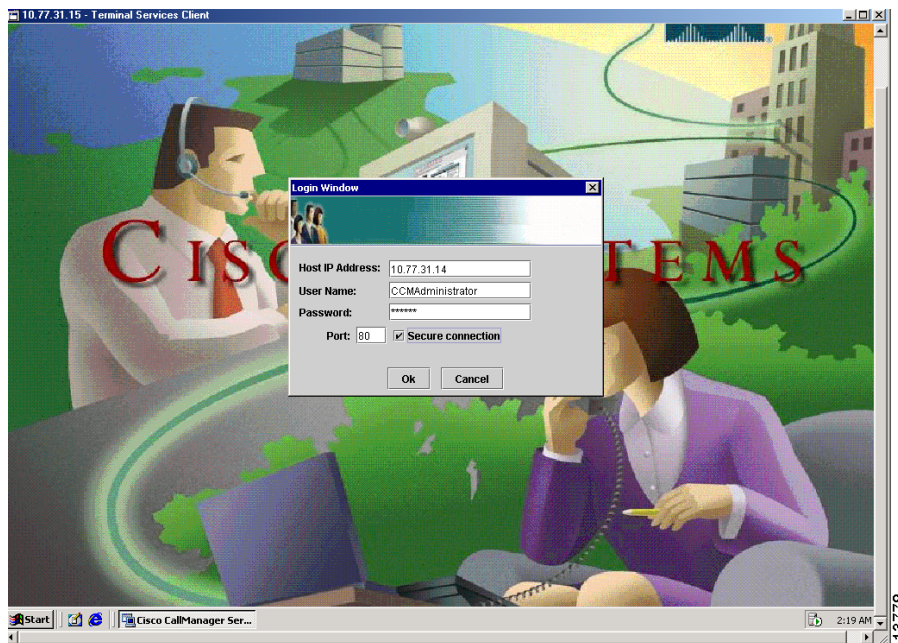
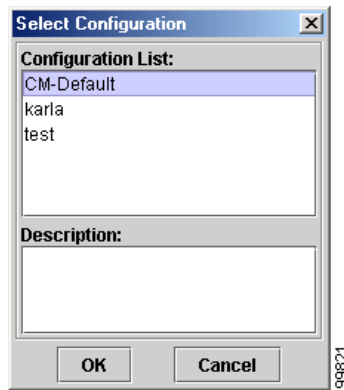


図 12-4 CM-Default 設定のポップアップ ダイアログボックスが表示された RTMT ウィンドウ



#### 関連項目

- [Real-Time Monitoring のロード \(P.12-2\)](#)
- [構成プロファイルの作成 \(P.12-9\)](#)
- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)



## 構成プロファイルの作成

CPU & Memory や SDL Queue など、あらかじめ用意されている（設定済みの）いくつかのウィンドウを開いて表示した後、RTMT に独自の構成プロファイルを作成できます。プロファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** 構成プロファイルに含めるモニタリング ウィンドウを開きます。

**ステップ 2** **System > Profile** の順に選択します。

Preferences ポップアップ ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 3** **Save** をクリックします。

Save Current Configuration ポップアップ ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** Configuration name フィールドに、この構成プロファイルの名前を入力します。

**ステップ 5** Configuration description フィールドに、この構成プロファイルの説明を入力します。



(注) 構成プロファイルの名前と説明は任意に指定できます。

システムにより新しい構成プロファイルが作成されます。

**ステップ 6** RTMT を閉じ、再起動します。

**ステップ 7** 再び **System > Profile** の順に選択します。

**ステップ 8** ポップアップ ダイアログボックスで、**Restore** をクリックします。

Configuration List にプロファイルが表示されます。

**ステップ 9** 開くプロファイルをクリックします。

あらかじめ用意されているウィンドウが自動的に開きます。

---

RTMT CM-Default については、[P.12-7](#) の「[RTMT のデフォルト設定](#)」を参照してください。

## RTMT ウィンドウのコンポーネント

RTMT ウィンドウには、メニューバーとモニタ ウィンドウという 2 つの主なコンポーネントがあります。これらのコンポーネントの両方またはいずれかを使用して、さまざまなモニタリング機能にアクセスできます。RTMT ウィンドウの例については、[図 12-5](#) を参照してください。

図 12-5 RTMT ウィンドウ



RTMT ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーには、特定のモニタリング機能を提供する次のドロップダウンメニュー項目が用意されています。

- System メニュー
- Monitor メニュー
- Search メニュー

- Edit メニュー
- Device メニュー
- Perfmon メニュー
- Alert メニュー
- Window メニュー
- Application メニュー
- Help メニュー



(注) RTMT メニューバーまたはモニタ ウィンドウ (RTMT ウィンドウの左側にあるコントローリング センター ペインの部分) を使用して、RTMT で多くの同じモニタリング オブジェクトをモニタできます。

RTMT メニューバーの項目の詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

RTMT のメイン ユーザー インターフェイスであるモニタ ウィンドウは、左側のコントローリング センター ペインと右側のコンテンツ表示ペインという 2 つの部分で構成されています。

コントローリング センター ペインには、View タブと Alert タブがあります。View タブにはいくつかのモニタリング カテゴリが含まれており、Alert タブには Alert カテゴリだけが含まれています。

View タブのモニタリング カテゴリに関連する手順については、次の項を参照してください。

- [View タブの Summary カテゴリの表示 \(P.12-14\)](#)
- [View タブの Server カテゴリの表示 \(P.12-16\)](#)
- [View タブの CallProcess カテゴリの表示 \(P.12-22\)](#)
- [View タブの Service カテゴリの表示 \(P.12-30\)](#)
- [View タブの Device カテゴリの表示 \(P.12-37\)](#)
- [View タブの CTI カテゴリの表示 \(P.12-52\)](#)
- [CTI Search の使用 \(P.12-54\)](#)

- [パフォーマンス モニタリングの概要 \(P.12-63\)](#)
- [カウンタのプロパティの概要 \(P.12-75\)](#)

Alert タブのモニタリング カテゴリに関連する手順については、次の項を参照してください。

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)

#### 関連項目

- [Real-Time Monitoring のロード \(P.12-2\)](#)
- [構成プロファイルの作成 \(P.12-9\)](#)
- 『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## View タブの Summary カテゴリの表示

View タブの Summary カテゴリを使用して要約情報を表示する手順は、次のとおりです。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Cluster Summary** の順に選択することにより、Cisco CallManager クラスタの要約を表示することもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリング センター ペインで、**View** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Summary** をクリックします。

メモリと CPU の使用状況、登録済みの電話機、進行中のコール、アクティブなゲートウェイ ポートとチャネルなど、Cisco CallManager クラスタ内のあらかじめ用意されているいくつかのモニタリング オブジェクトのアクティビティを示す Summary ウィンドウが表示されます。Summary モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-6](#) を参照してください。



(注)

メモリ使用率 (%) = (使用メモリ / 総物理メモリ) \* 100%

CPU 使用率 (%) = プロセッサが非アイドル スレッドを実行する時間の割合

図 12-6 Summary ウィンドウ



### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## View タブの Server カテゴリの表示

View タブの Server カテゴリを使用してサーバ情報を表示する方法については、次の手順を参照してください。

- サーバの CPU とメモリの情報のモニタリング (P.12-16)
- サーバのディスク使用状況のモニタリング (P.12-18)
- サーバの重要なサービスのモニタリング (P.12-20)

### サーバの CPU とメモリの情報のモニタリング

Server カテゴリで CPU とメモリの情報をモニタする手順は、次のとおりです。



(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Server** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **CPU and Memory** を選択することにより、CPU とメモリの情報をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

#### 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Server** をクリックします。

**ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインの **Server** の下で、**CPU & Memory** アイコンをクリックします。

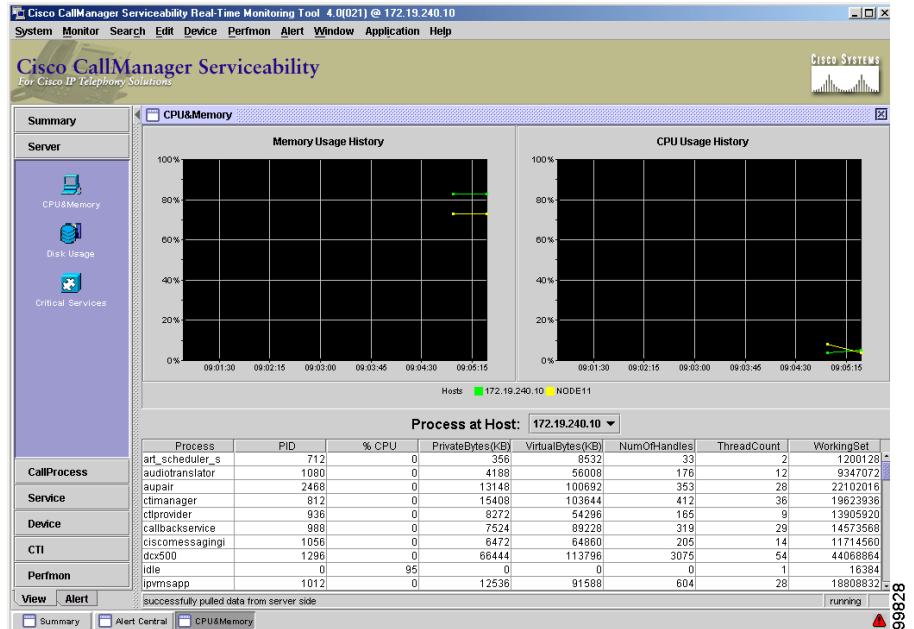
サーバのメモリと CPU の使用状況を示す CPU & Memory ウィンドウが表示されます。Server CPU & Memory ウィンドウの例については、[図 12-7](#) を参照してください。





- (注)  $\text{メモリ使用率 (\%)} = (\text{使用メモリ} / \text{総物理メモリ}) * 100\%$   
 $\text{CPU 使用率 (\%)} = \text{プロセッサが非アイドル スレッドを実行する時間の割合}$

## 図 12-7 Server CPU & Memory ウィンドウ



- ステップ 4** 別のサーバの CPU とメモリの使用状況をモニタするには、Process at Host の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストから、モニタするサーバを選択します。

選択したサーバに関する CPU とメモリの使用状況のモニタリング情報が表示されます。

### 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## サーバのディスク使用状況のモニタリング

Server カテゴリでディスク使用状況をモニタする手順は、次のとおりです。



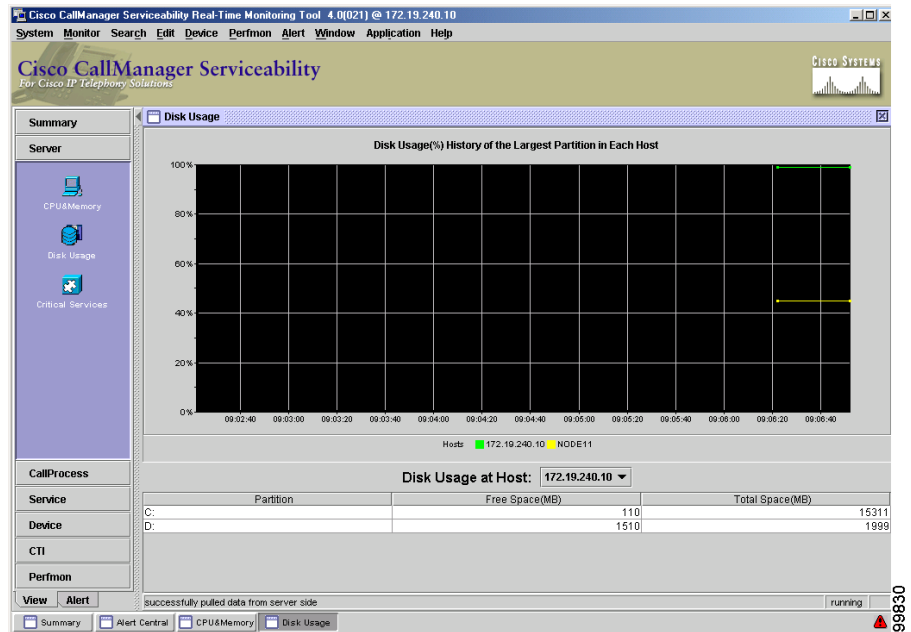
(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Server** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **DISK usage** を選択することにより、ディスク使用状況の情報をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2** **Server** をクリックします。
- ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインの **Server** の下で、**Disk Usage** アイコンをクリックします。

各ホストの最大パーティションごとのディスク使用率を示す Disk Usage モニタリング ウィンドウが表示されます。Server Disk Usage ウィンドウの例については、[図 12-8](#) を参照してください。

図 12-8 Server Disk Usage ウィンドウ



**ステップ 4** 別のサーバのディスク使用状況をモニタするには、Disk Usage at Host の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストから、モニタするサーバを選択します。

選択したサーバに関するディスク使用状況のモニタリング情報が表示されます。

#### 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## サーバの重要なサービスのモニタリング

Server カテゴリで重要なサービスをモニタする手順は、次のとおりです。



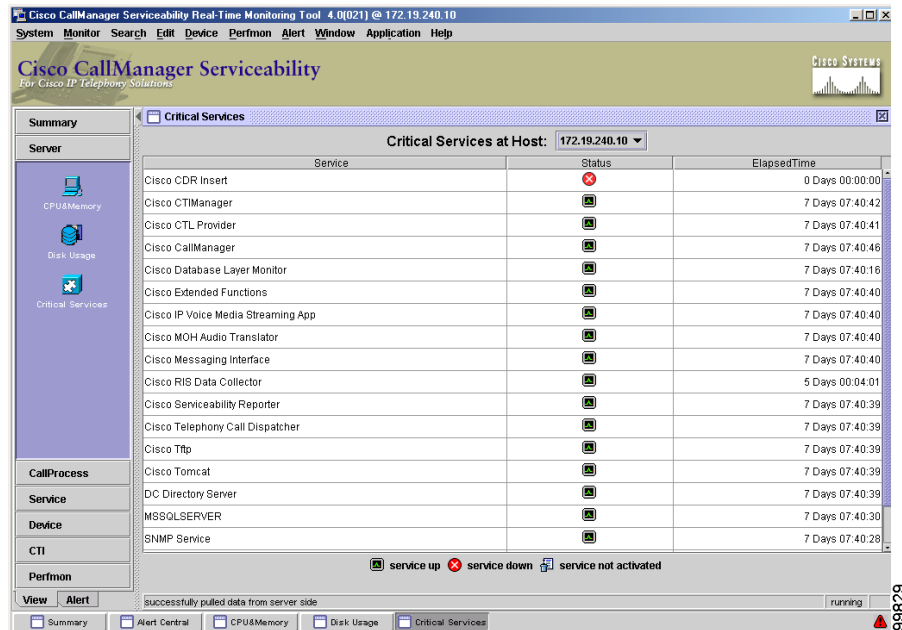
(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Server** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **Critical Services** を選択することにより、重要なサービスをモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2 **Server** をクリックします。
- ステップ 3 左側のコントローリングセンター ペインの **Server** の下で、**Critical Services** アイコンをクリックします。

この特定のサーバのサービスを示す **Critical Services** モニタリング ウィンドウが表示されます。Server Critical Services ウィンドウの例については、[図 12-9](#) を参照してください。

図 12-9 Server Critical Services ウィンドウ



**ステップ 4** 別のサーバの重要なサービスをモニタするには、Critical Services at Host の下向き矢印をクリックし、ドロップダウン リストから、モニタするサーバを選択します。

選択したサーバに関する重要なサービスのモニタリング情報が表示されます。このウィンドウから、Cisco CallManager ノードの各サービスをモニタし、サービスが稼働しているか、停止しているか、アクティブにされているかを調べ、そのサービスが現在の状態である期間を確認できます。

### 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## View タブの CallProcess カテゴリの表示

View タブの CallProcess カテゴリを使用してコール処理情報を表示する方法については、次の手順を参照してください。

- コール アクティビティのモニタリング (P.12-22)
- ゲートウェイ アクティビティのモニタリング (P.12-24)
- トランク アクティビティのモニタリング (P.12-26)
- SDL Queue のモニタリング (P.12-28)

### コール アクティビティのモニタリング

CallProcess カテゴリでコール アクティビティをモニタする手順は、次のとおりです。



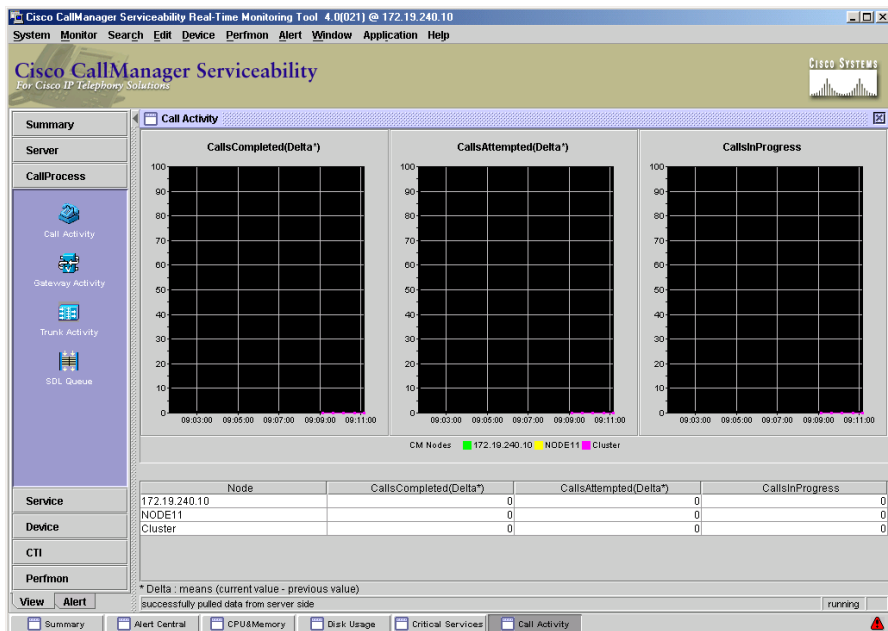
(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Call Process** の順に選択し、ドロップダウン メニューから **Call Activity** を選択することにより、コール アクティビティ情報をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1 左側のコントローリング センター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2 **CallProcess** をクリックします。
- ステップ 3 左側のコントローリング センター ペインの **CallProcess** の下で、**Call Activity** アイコンをクリックします。

クラスタ内の各 Cisco CallManager ノードのコール アクティビティを示す Call Activity モニタリング ウィンドウが表示されます。Call Activity モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-10](#) を参照してください。

図 12-10 Call Process Call Activity ウィンドウ



### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## ゲートウェイ アクティビティのモニタリング

CallProcess カテゴリでゲートウェイ アクティビティをモニタする手順は、次のとおりです。



(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Call Process** の順に選択し、ドロップダウン メニューから **Gateway Activity** を選択することにより、ゲートウェイ アクティビティをモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

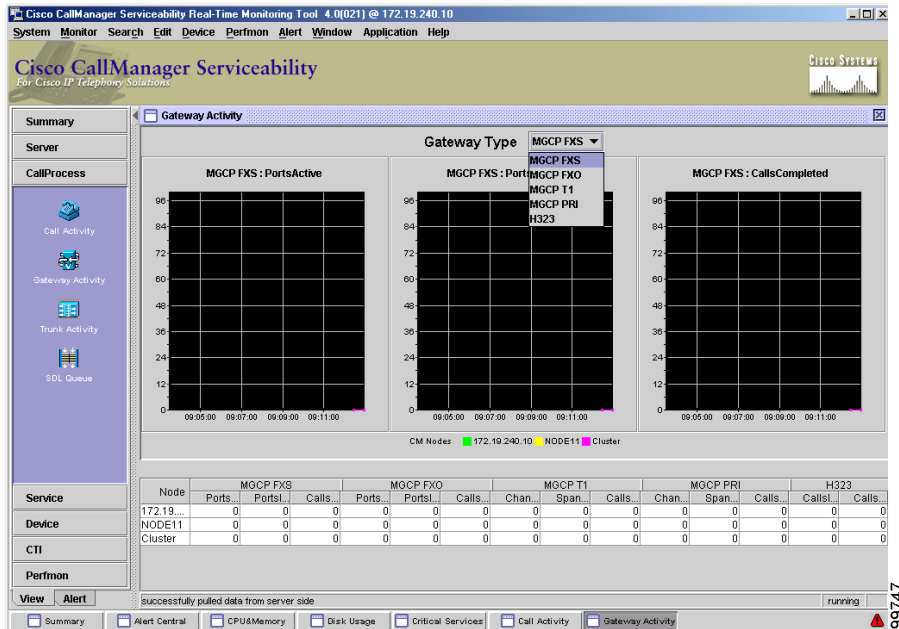
### 手順

- ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2** **CallProcess** をクリックします。
- ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインの **CallProcess** の下で、**Gateway Activity** アイコンをクリックします。

Cisco CallManager クラスタのゲートウェイ アクティビティを示す Gateway Activity モニタリング ウィンドウが表示されます。Gateway Activity モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-11](#) を参照してください。



図 12-11 Call Process Gateway Activity ウィンドウ



ゲートウェイ タイプに応じて、クラスタ内のゲートウェイ アクティビティが表示されます。

**ステップ 4** 別のゲートウェイ タイプのゲートウェイ アクティビティを表示するには、Gateway Type の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストから、モニターするゲートウェイ タイプを選択します。

ウィンドウに、選択したゲートウェイ タイプのゲートウェイ アクティビティが表示されます。

### 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## トランク アクティビティのモニタリング

CallProcess カテゴリでトランク アクティビティをモニタする手順は、次のとおりです。



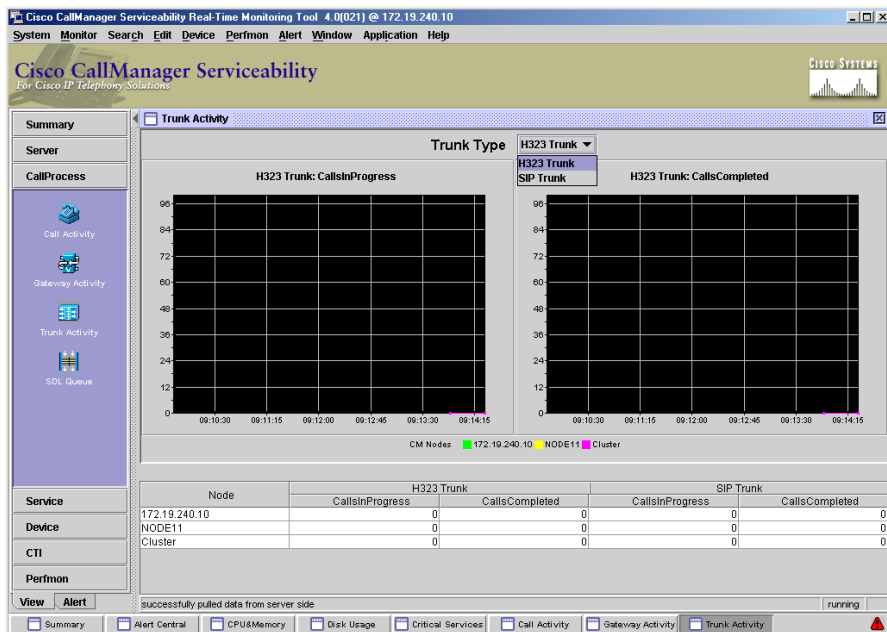
(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Call Process** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **Trunk Activity** を選択することにより、トランク アクティビティをモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2 **CallProcess** をクリックします。
- ステップ 3 左側のコントローリングセンター ペインの **CallProcess** の下で、**Trunk Activity** アイコンをクリックします。

Cisco CallManager クラスタ内のトランク アクティビティを示す Trunk Activity モニタリング ウィンドウが表示されます。Trunk Activity モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-12](#) を参照してください。

図 12-12 Call Process Trunk Activity ウィンドウ



トランク タイプに応じて、クラスタ内のトランク アクティビティが表示されます。

**ステップ 4** 別のトランク タイプのトランク アクティビティを表示するには、Trunk Type の下向き矢印をクリックし、ドロップダウン リストから、モニタするトランク タイプを選択します。

ウィンドウに、選択したトランク タイプのトランク アクティビティが表示されます。

### 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## SDL Queue のモニタリング

CallProcess カテゴリで SDL Queue をモニタする手順は、次のとおりです。



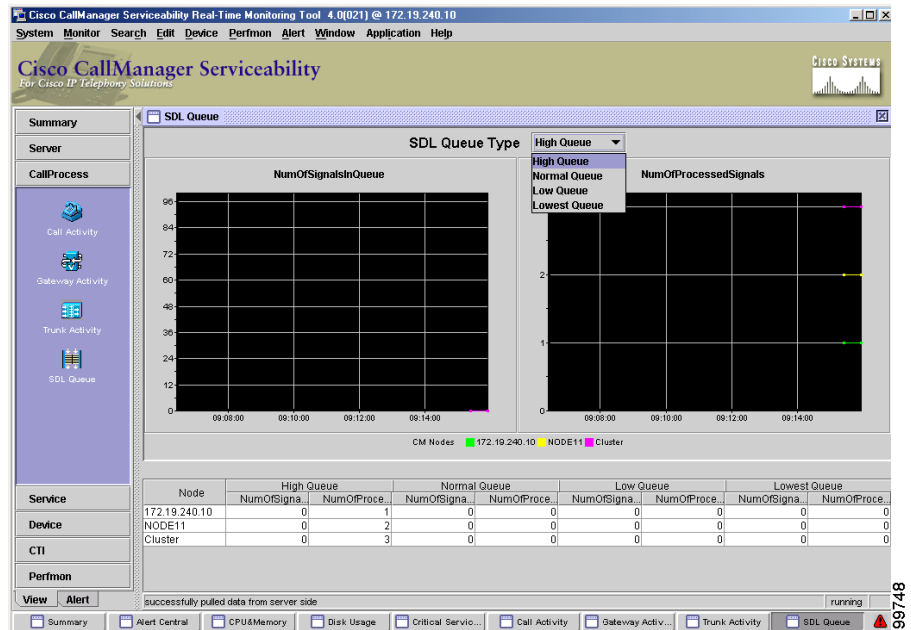
(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Call Process** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **SDL Queues** を選択することにより、SDL Queue をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2 **CallProcess** をクリックします。
- ステップ 3 左側のコントローリングセンター ペインの **CallProcess** の下で、**SDL Queue** アイコンをクリックします。

SDL Queue 情報を示す SDL Queue モニタリング ウィンドウが表示されます。SDL Queue モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-13](#) を参照してください。

図 12-13 Call Process SDL Queue ウィンドウ



SDL Queue のタイプに応じて、クラスタ内の SDL Queue 情報が表示されます。

- ステップ 4** 別の SDL Queue タイプの SDL Queue 情報を表示するには、SDL Queue Type の下向き矢印をクリックし、ドロップダウン リストから、モニタする SDL Queue タイプを選択します。

ウィンドウに、選択した SDL Queue タイプの SDL Queue 情報が表示されます。

### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## View タブの Service カテゴリの表示

View タブの Service カテゴリを使用してサービス モニタリング情報を表示する方法については、次の手順を参照してください。

- [Cisco TFTP のモニタリング \(P.12-30\)](#)
- [ディレクトリ サーバ情報のモニタリング \(P.12-32\)](#)
- [ハートビートのモニタリング \(P.12-35\)](#)

## Cisco TFTP のモニタリング

Service カテゴリで Cisco TFTP をモニタする手順は、次のとおりです。



(注)

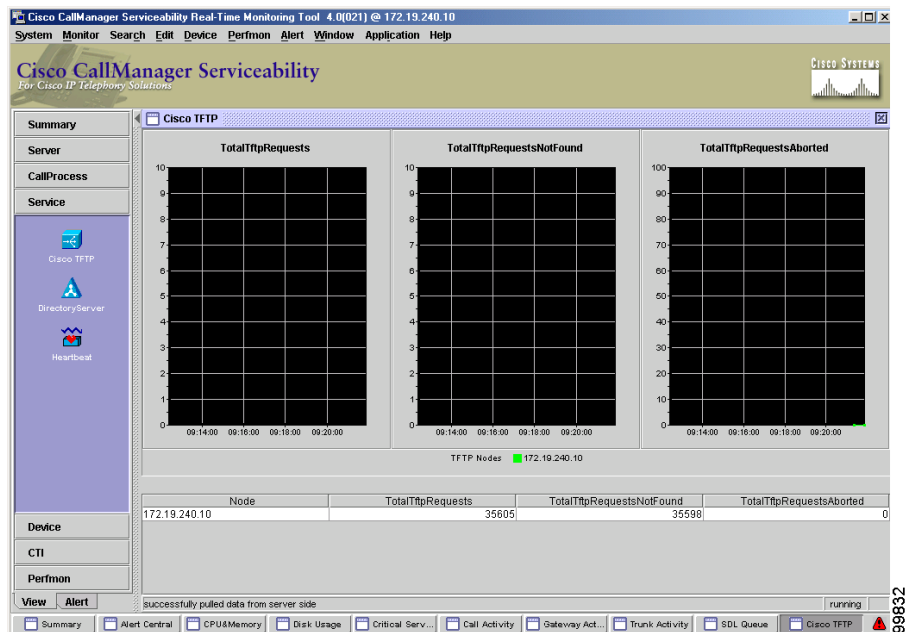
RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Service** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **Cisco TFTP** を選択することにより、Cisco TFTP をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** 左側のコントローリング センター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2** **Service** をクリックします。
- ステップ 3** 左側のコントローリング センター ペインの **Service** の下で、**Cisco TFTP** アイコンをクリックします。

各 Cisco CallManager ノードの Cisco TFTP の状況を示す Cisco TFTP モニタリング ウィンドウが表示されます。Cisco TFTP モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-14](#) を参照してください。

図 12-14 Service Cisco TFTP ウィンドウ



### 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## ディレクトリ サーバ情報のモニタリング

Service カテゴリでディレクトリ サーバ情報をモニタする手順は、次のとおりです。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Service** の順に選択し、ドロップダウン メニューから **Directory Server** を選択することにより、ディレクトリ サーバ情報をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

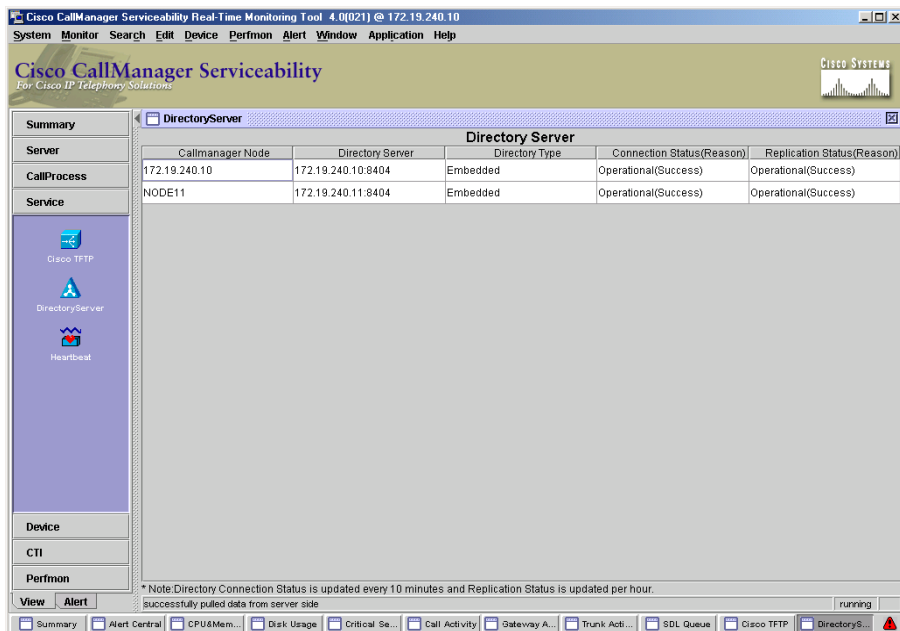
### 手順

- ステップ 1 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2 **Service** をクリックします。
- ステップ 3 左側のコントローリングセンター ペインの **Service** の下で、**DirectoryServer** アイコンをクリックします。

Cisco CallManager クラスタのディレクトリ サーバ情報を示す **DirectoryServer** モニタリング ウィンドウが表示されます。**DirectoryServer** モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-15](#) を参照してください。



図 12-15 Service DirectoryServer ウィンドウ



Directory Server ペインが表示されます。ディレクトリ サーバ情報については、表 12-1 を参照してください。

表 12-1 ディレクトリ サーバ情報

情報	説明
CallManager Node	データベースで設定されている Cisco CallManager ノードの名前 (IP アドレスまたはホスト名)。
Directory Server	ディレクトリが常駐している Cisco CallManager サーバの IP アドレスまたはホスト名およびポート番号。
Directory Type	Embedded、Netscape、または Active Directory。

表 12-1 ディレクトリ サーバ情報 (続き)

情報	説明
Connection Status (Reason)	Operational または Not Connected。Not Connected の接続状況がある場合、Directory API が返すエラー戻りコードを記述するエラーメッセージが表示されます。
Replication Status (Reason)	Operational または Not Operational。ディレクトリタイプが Embedded で、サブスクライバノードである場合、状況が表示されます。ディレクトリタイプが Embedded およびパブリッシャ/サブスクライバノードである場合、ディレクトリパブリッシャノードでもあります。  Replication Status が Not Operational である場合、Directory API が返すエラー戻りコードを記述するエラーメッセージが表示されます。



(注) Directory Services ウィンドウの列を拡張したり、縮小したりすることができます。カーソルを列の端に移動してください。二重の矢印が表示されたら、マウスをクリックし、左右に動かして、拡張したり縮小したりします。

#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## ハートビートのモニタリング

Service カテゴリで Cisco CallManager ハートビートをモニタする手順は、次のとおりです。Cisco CallManager ハートビートの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Service** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **Heartbeat** を選択することにより、ハートビート情報をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2** **Service** をクリックします。
- ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインの **Service** の下で、**Heartbeat** アイコンをクリックします。

Cisco CallManager、Cisco TFTP サービス、および Cisco Telephony Call Dispatcher (TCD) サービスのハートビート情報を示す **Heartbeat** モニタリング ウィンドウが表示されます。**Heartbeat** モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-16](#) を参照してください。

## View タブの Service カテゴリの表示

図 12-16 Service Heartbeat ウィンドウ



Heartbeat モニタリング ウィンドウには、クラスタ内の各 Cisco CallManager ノード、Cisco TFTP ノード、および Cisco TCD ノードのハートビート情報が表示されます。

## 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## View タブの Device カテゴリの表示

View タブの Device カテゴリを使用してデバイス モニタリング情報を表示する方法については、次の手順を参照してください。

- [デバイス要約情報のモニタリング \(P.12-37\)](#)
- [Device Search を使用したデバイスのモニタリング \(P.12-39\)](#)

### デバイス要約情報のモニタリング

Device カテゴリで Cisco CallManager クラスタ内のすべてのデバイスをモニタする手順は、次のとおりです。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > Device** の順に選択し、ドロップダウンメニューから **Device Summary** を選択することにより、デバイス情報をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

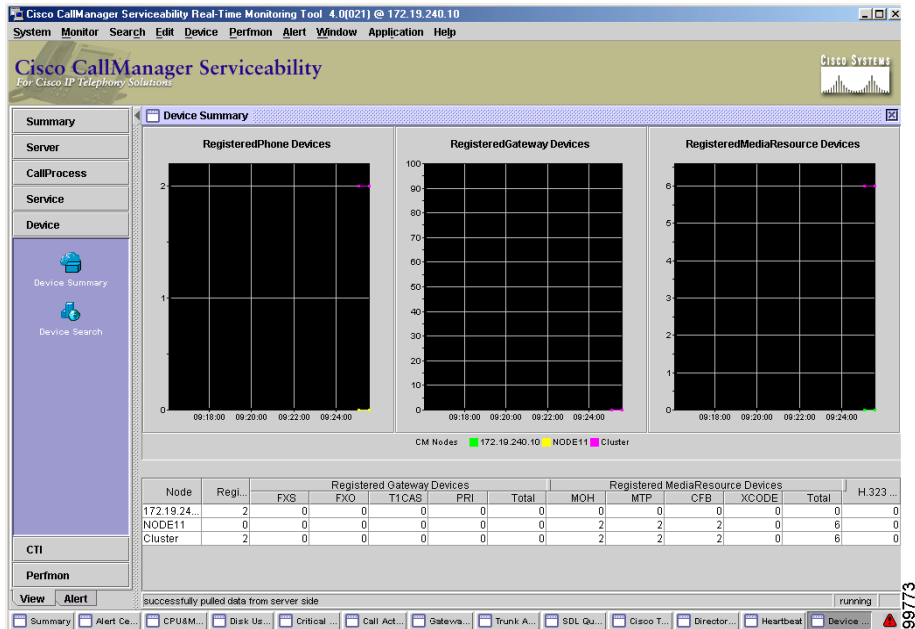
#### 手順

- ステップ 1** 左側のコントローリング センター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2** **Device** をクリックします。
- ステップ 3** 左側のコントローリング センター ペインの **Device** の下で、**Device Summary** アイコンをクリックします。

Cisco CallManager クラスタ内の電話機、ゲートウェイ、およびメディア リソースのアクティビティを示す Device Summary モニタリング ウィンドウが表示されます。Device Summary モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-17](#) を参照してください。

## View タブの Device カテゴリの表示

図 12-17 Device Summary ウィンドウ



## 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## Device Search を使用したデバイスのモニタリング

Device カテゴリの Device Search を使用して、モニタする Cisco CallManager デバイスを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Search > Device** の順に選択し、ドロップダウンメニューから、検索する特定のデバイスを選択することにより、Cisco CallManager デバイスを検索することもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

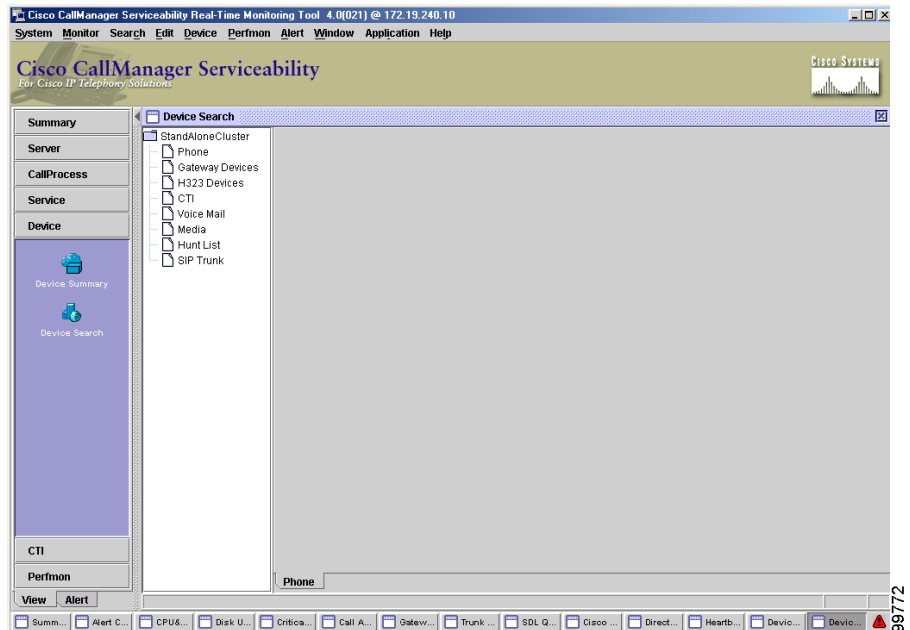
### 手順

- ステップ 1 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2 **Device** をクリックします。
- ステップ 3 左側のコントローリングセンター ペインの **Device** の下で、**Device Search** アイコンをクリックします。

Device Search ウィンドウが表示され、クラスタ、およびそのクラスタ内のすべてのデバイスを含むツリー階層が示されます。Device Search ウィンドウの例については、[図 12-18](#) を参照してください。

## View タブの Device カテゴリの表示

図 12-18 Device Search ウィンドウ

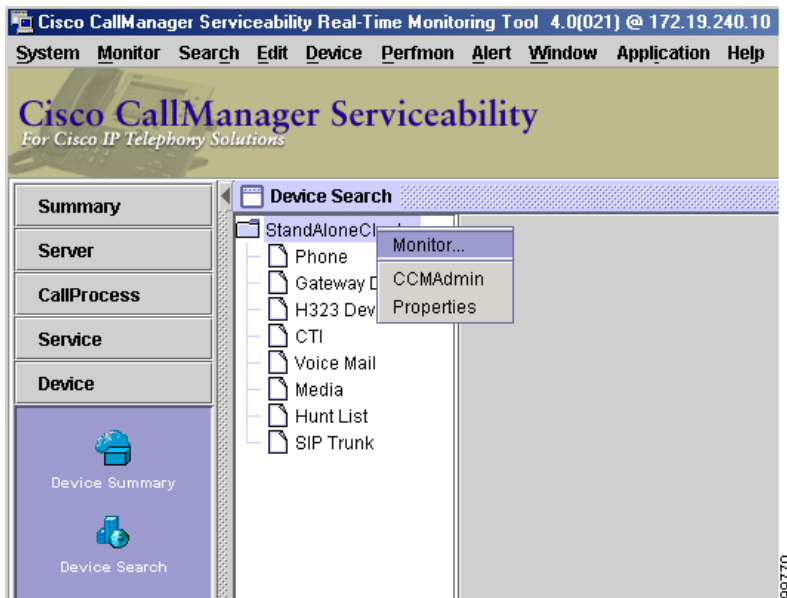


マウスの右ボタンを使用して、クラスタ内のデバイスの検出、Cisco CallManager Administration ウィンドウへの移動、またはクラスタ内に存在する各 Cisco CallManager ノードのクラスタ情報の表示を行うことができます。

- ステップ 4** クラスタ内のデバイスを検出するには、ツリー階層の最上位にあるクラスタ名をクリックし、右クリックします。図 12-19 を参照してください。



図 12-19 Device Search のクラスタ モニタリング



ステップ 5 **Monitor** をクリックします。

Find devices in StandAloneCluster ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 6 Select device with status ダイアログボックスで、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Registered
- Unregistered
- Rejected
- Any Status
- Device only configured in database

オプション ボタンの右側に表示されているドロップダウン ボックスが強調表示されます。

## ■ View タブの Device カテゴリの表示

**ステップ 7** ドロップダウン ボックスの下向き矢印をクリックします。

Cisco CallManager クラスタ内のノードがドロップダウンリストに表示されます。

**ステップ 8** デバイス情報を表示する Cisco CallManager ノードまたはすべての Cisco CallManager を選択します。



(注) この後のステップでは、<Back、Next>、Finish、または Cancel の各ボタンを選択できます。これらのボタンは、手順を完了させるために使用します。

**ステップ 9** Next > ボタンをクリックします。

Search by device model ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 10** 次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- Any Model
- Device Model

**ステップ 11** Device Model を選択した場合は、デバイス情報を表示するデバイスを選択します。

**ステップ 12** Next をクリックします。

Search with name ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 13** 次のいずれかのオプション ボタンを選択し、必要に応じて、対応するフィールドに適切な情報を入力します。

- Any name/address
- Directory Number (たとえば、200\*)
- Device Name (たとえば、SEP123\*)

- Device Description (たとえば、Auto\*)
- IP Address (たとえば、172.20.12.\*)
- IP Subnet


**Next** をクリックします。

Monitor following attributes ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 14** 次の検索属性のいずれかまたはすべてを選択します。

- Name
- Node
- IPAddress
- Model
- StatusReason
- Status
- DirNumber
- Type
- LoginUserId
- TimeStamp

**ステップ 15** **Finish** をクリックします。

 [12-20](#) を参照してください。検索基準に基づいて、ウィンドウに検索結果が表示されます。

## View タブの Device カテゴリの表示

図 12-20 Device Search の結果

Name	Status	Node	DirNumb...	IpAddress	Model	LoginUs...	StatusR...
SEP0002F...	Registered	NODE10	1005	172.19.240...	Cisco 7940	N/A	N/A
SEP000309...	Registered	NODE10	1001	172.19.239...	Cisco 7960	N/A	N/A
SEP000309...	Registered	NODE10	1000	172.19.240...	Cisco 7960	N/A	N/A
SEP000309...	Registered	NODE10	1003	172.19.240...	Cisco 7960	N/A	N/A
SEP000309...	Registered	NODE10	1002	172.19.240...	Cisco 7960	N/A	N/A

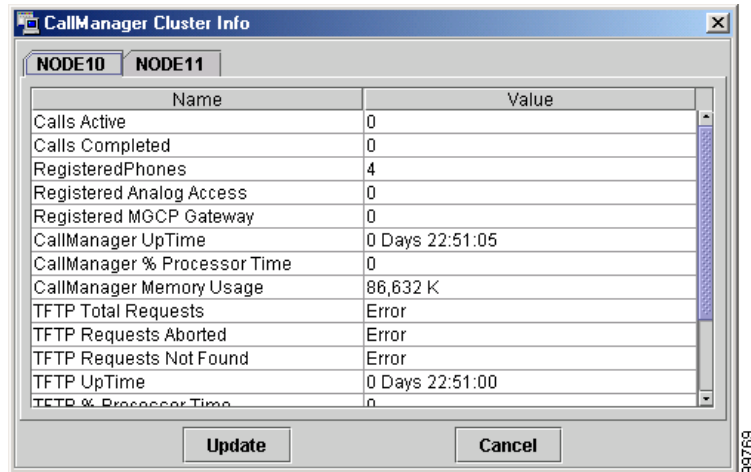
5 devices match the search criteria.

**ステップ 16** Cisco CallManager のクラスタ情報を表示するには、ツリー階層の最上位にあるクラスタ名をクリックし、右クリックします。

**ステップ 17** **Properties** をクリックします。

クラスタ内の各 Cisco CallManager ノードのクラスタ情報を示す CallManager Cluster Info ウィンドウが表示されます。図 12-21 を参照してください。

図 12-21 Cisco CallManager のクラスタ情報ウィンドウ



Name	Value
Calls Active	0
Calls Completed	0
RegisteredPhones	4
Registered Analog Access	0
Registered MGCP Gateway	0
CallManager UpTime	0 Days 22:51:05
CallManager % Processor Time	0
CallManager Memory Usage	86,632 K
TFTP Total Requests	Error
TFTP Requests Aborted	Error
TFTP Requests Not Found	Error
TFTP UpTime	0 Days 22:51:00
TFTP % Processor Time	0

**ステップ 18** クラスタ情報を表示する Cisco CallManager ノードの名前を含むタブをクリックします。

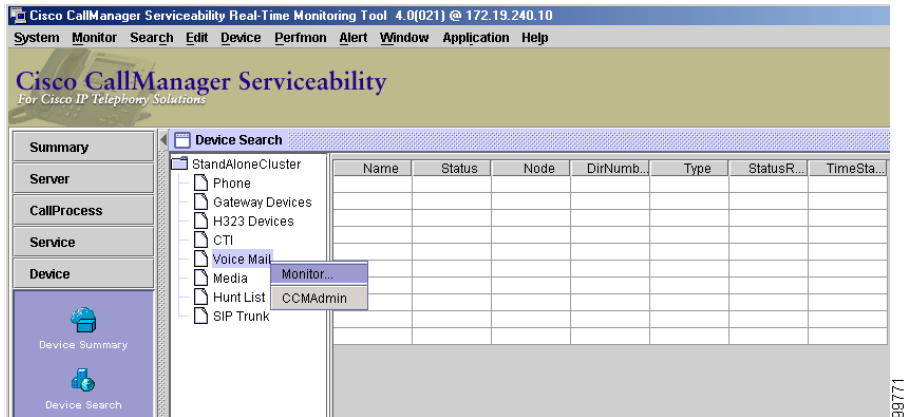
**ステップ 19** クラスタ情報を更新するには、**Update** をクリックします。

マウスの右ボタンを使用して、クラスタ内の Cisco CallManager ノードごとに、クラスタ内のデバイスのモニタ、または Cisco CallManager Administration への移動を行うことができます。

**ステップ 20** クラスタ内のデバイスをモニタするには、ツリー階層からデバイス名をクリックし、右クリックします。図 12-22 を参照してください。

## View タブの Device カテゴリの表示

図 12-22 デバイス モニタリング



ステップ 21 **Monitor** をクリックします。

選択したデバイスのダイアログボックスが表示されます。

ステップ 22 Select device with status ダイアログボックスで、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Registered
- Unregistered
- Rejected
- Any Status
- Device only configured in database

選択したオプション ボタンの右側にドロップダウン ボックスがある場合、そのドロップダウン ボックスが強調表示されます。

ステップ 23 デバイスをモニタする Cisco CallManager ノードを選択するか、または **Any CallManager** を選択します。

ステップ 24 **Next** をクリックします。

Search by device model ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 25 次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Any Model
- Device Model

ステップ 26 **Device Model** を選択した場合は、デバイス情報を表示するデバイスを選択します。

ステップ 27 **Next** をクリックします。

Search with name ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 28 次のいずれかのオプション ボタンを選択し、必要に応じて、対応するフィールドに適切な情報を入力します。

- Any name/address
- Directory Number (たとえば、200\*)
- Device Name (たとえば、SEP123\*)
- Device Description (たとえば、Auto\*)
- IP Address (たとえば、172.20.12.\*)
- IP Subnet

**Next** をクリックします。

Monitor following attributes ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 29 次の検索属性のいずれかまたはすべてを選択します。

- Name
- Node
- Model
- Time Stamp

## ■ View タブの Device カテゴリの表示

- Status
- IPAddress
- StatusReason

ステップ 30 **Finish** をクリックします。

検索基準に基づいて、ウィンドウに検索結果が表示されます。

ステップ 31 モニタするデバイスごとにステップ 20 ～ステップ 30 を繰り返します。

---

**関連項目**

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## 電話機情報の表示

RTMT Device Monitoring ペインに表示されている電話機の情報を見ることができます。ここでは、電話機の情報を表示する方法を説明します。

**手順**

---

ステップ 1 RTMT Device Monitoring ペインに電話機を表示するには、P.12-39 の「[Device Search を使用したデバイスのモニタリング](#)」を参照します。

ステップ 2 情報を表示する電話機を選択します。

ステップ 3 そのデバイスを右クリックします。

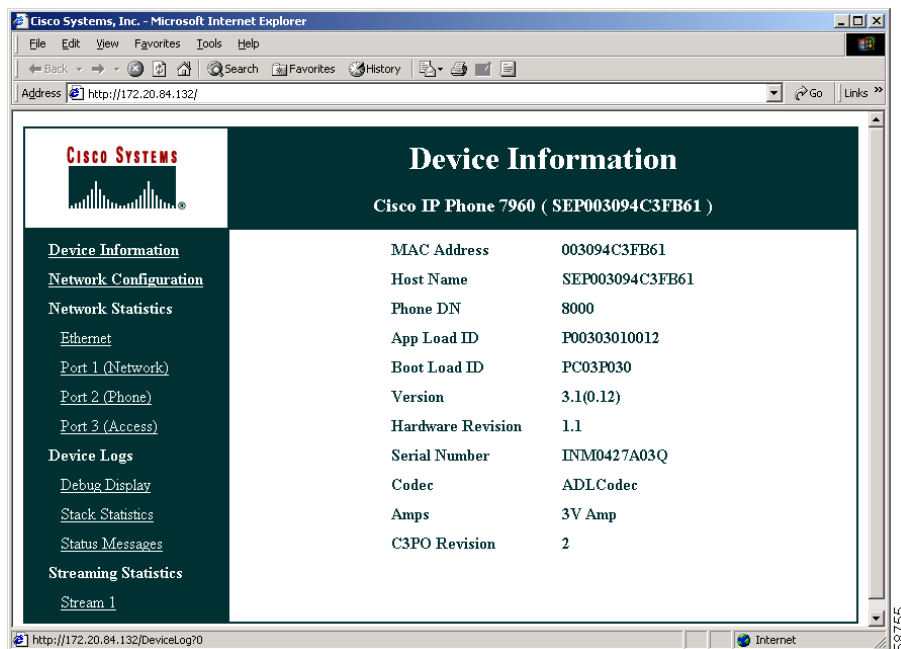
ポップアップ メニューが表示されます。



ステップ 4 **Open** を選択します。

Device Information ウィンドウが表示されます。図 12-23 を参照してください。デバイスについて詳しい情報を表示するには、ウィンドウの左側のペインに表示されるフィールドを選択します。

図 12-23 Device Information ウィンドウ



#### 関連項目

- RTMT ウィンドウのコンポーネント (P.12-11)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## デバイスのプロパティの表示

デバイスのプロパティは、RTMT Device Monitoring ペインに表示できます。ここでは、デバイスのプロパティを表示する方法を説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** デバイスを RTMT Device Monitoring ペインに表示するには、次の手順を実行します。P.12-39 の「[Device Search](#) を使用したデバイスのモニタリング」を参照してください。

**ステップ 2** プロパティ情報を表示するデバイスを選択します。

**ステップ 3** そのデバイスを右クリックします。

ポップアップメニューが表示されます。

**ステップ 4** **Properties** を選択します。

Device Property ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** デバイスの説明を表示するには、**Description** タブをクリックします。

**ステップ 6** その他のデバイス情報を表示するには、**Other Info** タブをクリックします。

製品 ID、HTTP サポート、プラットフォーム タイプ、および登録試行回数が、ウィンドウに表示されます。

---

### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## アプリケーション情報の表示

Cisco IP Phone、CTI ポート、CTI ルート ポイントなどの選択されたデバイスに対するアプリケーション情報を表示できます。ここでは、アプリケーション情報を表示する方法を説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** アプリケーション情報を表示するデバイス（たとえば、CTI）を選択します。

**ステップ 2** そのデバイスを右クリックします。

ポップアップメニューが表示されます。

**ステップ 3** **App Info** を選択します。

Application Information ウィンドウに、CTI マネージャのノード名、アプリケーション ID、ユーザ ID、アプリケーション IP アドレス、アプリケーションの状況、アプリケーションのタイム スタンプ、デバイスのタイム スタンプ、デバイス名、および CTI デバイスのオープン状況が表示されます。

**ステップ 4** 更新された情報を表示するには、**Refresh** ボタンをクリックします。ウィンドウを閉じるには、**OK** ボタンをクリックします。

---

### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## View タブの CTI カテゴリの表示

View タブの CTI カテゴリを使用して CTI Manager のモニタリング情報を表示する方法については、次の手順を参照してください。

- [CTI Manager 情報のモニタリング \(P.12-52\)](#)
- [CTI Search の使用 \(P.12-54\)](#)
- [CTI Search を使用した CTI アプリケーションのモニタリング \(P.12-54\)](#)
- [CTI Search を使用した CTI デバイスのモニタリング \(P.12-57\)](#)

## CTI Manager 情報のモニタリング

CTI カテゴリで Cisco CallManager クラスタ内の CTI Manager をモニタする手順は、次のとおりです。



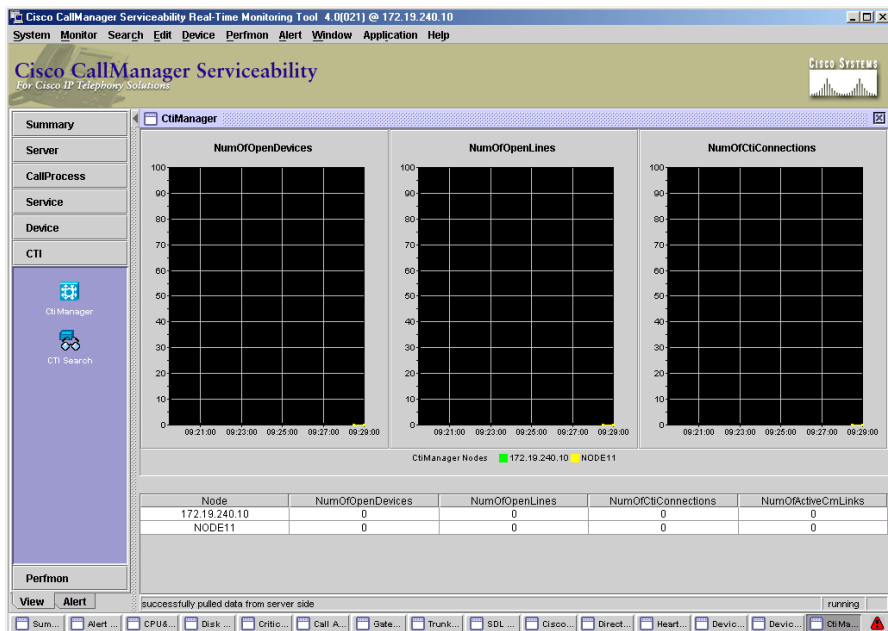
(注) RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Monitor > CTI Manager** の順に選択することにより、CTI Manager 情報をモニタすることもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2** **CTI** をクリックします。
- ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Cti Manager** アイコンをクリックします。

クラスタ内の Cisco CallManager ごとに、オープンしているデバイス、回線、および CTI 接続の数を示す CtiManager モニタリング ウィンドウが表示されます。CtiManager モニタリング ウィンドウの例については、[図 12-24](#) を参照してください。

図 12-24 CtiManager モニタリング ウィンドウ



### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## CTI Search の使用

CTI Search を使用すると、Cisco CallManager クラスタ内のすべての CTI アプリケーション、デバイス、および回線を検索できます。CTI 情報を検索する方法については、次の手順を参照してください。

- [CTI Search を使用した CTI アプリケーションのモニタリング \(P.12-54\)](#)
- [CTI Search を使用した CTI デバイスのモニタリング \(P.12-57\)](#)
- [CTI Search を使用した CTI 回線のモニタリング \(P.12-60\)](#)

### CTI Search を使用した CTI アプリケーションのモニタリング

CTI カテゴリの CTI Search を使用して、モニタする Cisco CallManager CTI アプリケーションを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Search > CTI** の順に選択し、ドロップダウンメニューから、検索する CTI アプリケーション、デバイス、または回線を選択することにより、Cisco CallManager CTI アプリケーションを検索することもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。



ヒント

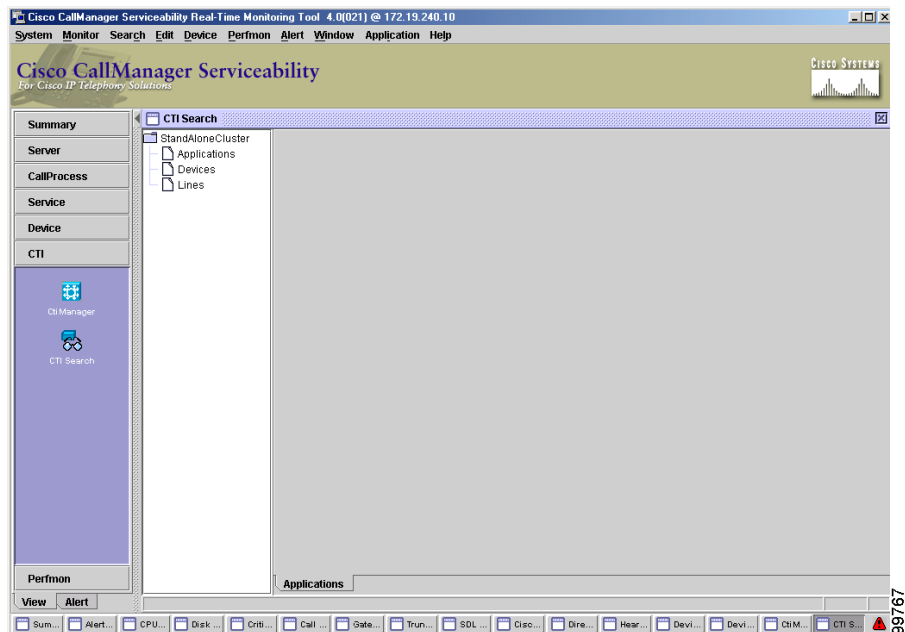
CTI アプリケーションを選択するには、その名前をダブルクリックするか、**Applications** を右クリックします。アプリケーションの名前をダブルクリックすると、Select Applications to Monitor ウィンドウが開きます。Applications を右クリックすると Monitor オプションが表示されます。Select Applications to Monitor ウィンドウを開くには、このオプションを選択する必要があります。次の手順では、これらのいずれかの方法でアプリケーションを選択してください。

## 手順

- ステップ 1 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2 **CTI** をクリックします。
- ステップ 3 左側のコントローリングセンター ペインで、**CTI Search** アイコンをクリックします。

CTI Search ウィンドウが表示され、クラスタ、およびそのクラスタ内のすべての CTI アプリケーション、デバイス、および回線を含むツリー階層が示されます。CTI Search ウィンドウの例については、[図 12-25](#) を参照してください。

図 12-25 CTI Search モニタリング ウィンドウ



**ステップ 4** ツリー階層リストで、**Applications** を選択します。

Select Applications to monitor ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** CTI Manager フィールドのドロップダウン リスト ボックスから、モニタの対象とする CTI マネージャを選択します。

**ステップ 6** Applications Status フィールドで、アプリケーション状況を選択します。

**ステップ 7** **Next** をクリックします。

ウィンドウに検索基準が表示されます。

**ステップ 8** 次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- Any name/address
- App Id
- IP Address
- IP Subnet
- UserId

**ステップ 9** 選択したオプション ボタンのフィールドに情報を入力します。たとえば、IP Subnet オプション ボタンを選択した場合は、フィールドに IP アドレスとサブネット マスクを入力します。

**ステップ 10** **Next** をクリックします。

ウィンドウにモニタリング属性のフィールドが表示されます。

**ステップ 11** モニタの対象とするアプリケーションの属性のチェックボックスをオンにします。



ステップ 12 **Finish** をクリックします。

Application Monitoring ペインに、選択した情報が表示されます。

---

#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## CTI Search を使用した CTI デバイスのモニタリング

CTI カテゴリの CTI Search を使用して、モニタする Cisco CallManager CTI デバイスを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Search > CTI** の順に選択し、ドロップダウンメニューから、検索する CTI アプリケーション、デバイス、または回線を選択することにより、Cisco CallManager CTI デバイスを検索することもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

---



ヒント

CTI デバイスを選択するには、その名前をダブルクリックするか、**Devices** を右クリックします。デバイスの名前をダブルクリックすると、**Select Devices to Monitor** ウィンドウが開きます。Devices を右クリックすると **Monitor** オプションが表示されます。**Select Devices to Monitor** ウィンドウを開くには、このオプションを選択する必要があります。次の手順では、これらのいずれかの方法でデバイスを選択してください。

---

## 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。

**ステップ 2** **CTI** をクリックします。

**ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインで、**CTI Search** アイコンをクリックします。

CTI Search ウィンドウが表示され、クラスタ、およびそのクラスタ内のすべての CTI アプリケーション、デバイス、および回線を含むツリー階層が示されます。CTI Search ウィンドウの例については、[図 12-25](#) を参照してください。

**ステップ 4** ツリー階層リストで、**Devices** を選択します。

Select Devices to monitor ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** CTI Manager フィールドのドロップダウン リスト ボックスで、モニタの対象とする CTI マネージャを選択します。

**ステップ 6** Devices Status フィールドで、デバイス状況を選択します。

**ステップ 7** Devices ボックスで、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- Any name/address
- Device Name (たとえば、SEP123\*)



(注) Device Name オプション ボタンを選択した場合は、フィールドにデバイス名を入力します。

**ステップ 8** **Next** をクリックします。

**ステップ 9** Application Pattern ボックスで、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Any name/address
- App Id
- IP Address
- IP Subnet
- UserId (たとえば、jsmith\*)

**ステップ 10** 選択したオプション ボタンのフィールドに情報を入力します。たとえば、IP Subnet を選択した場合は、フィールドに IP アドレスとサブネット マスクを入力します。

**ステップ 11** **Next** をクリックします。

ウィンドウにモニタリング属性のフィールドが表示されます。

**ステップ 12** モニタの対象とするデバイスの属性のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 13** **Finish** をクリックします。

Device Monitoring ペインに、選択した情報が表示されます。

---

### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## CTI Search を使用した CTI 回線のモニタリング

CTI カテゴリの CTI Search を使用して、モニタする Cisco CallManager CTI 回線を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

RTMT ペインの上部にあるメニューバーで **Search > CTI** の順に選択し、ドロップダウンメニューから、検索する CTI アプリケーション、デバイス、または回線を選択することにより、Cisco CallManager CTI 回線を検索することもできます。RTMT メニューバーの詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。



ヒント

CTI 回線を選択するには、その名前をダブルクリックするか、**Lines** を右クリックします。回線の名前をダブルクリックすると、**Select Lines to Monitor** ウィンドウが開きます。**Lines** を右クリックすると **Monitor** オプションが表示されます。**Select Lines to Monitor** ウィンドウを開くには、このオプションを選択する必要があります。次の手順では、これらのいずれかの方法で回線を選択してください。

### 手順

- ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。
- ステップ 2** **CTI** をクリックします。
- ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインで、**CTI Search** アイコンをクリックします。

CTI Search ウィンドウが表示され、クラスタ、およびそのクラスタ内のすべての CTI アプリケーション、デバイス、および回線を含むツリー階層が示されます。CTI Search ウィンドウの例については、[図 12-25](#) を参照してください。

**ステップ 4** ツリー階層リストで、**Lines** を選択します。

Select Lines to monitor ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** CTI Manager & Status フィールドのドロップダウン リスト ボックスから、モニタの対象とする CTI マネージャを選択します。

**ステップ 6** Lines Status フィールドで、回線状況を選択します。

**ステップ 7** Devices ボックスで、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Any name/address
- Device Name (たとえば、SEP123\*)



(注) Device Name オプション ボタンを選択した場合は、フィールドにデバイス名を入力します。

**ステップ 8** Lines ボックスで、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Any name/address
- Directory Number (たとえば、200\*)



(注) Directory Number オプション ボタンを選択した場合は、フィールドに電話番号を入力します。

**ステップ 9** **Next** をクリックします。

**ステップ 10** Application Pattern ボックスで、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Any name/address
- App Id (たとえば、TSP\*)
- IP Address (たとえば、172.20.12\*)

- IP Subnet
- UserId (たとえば、jsmith\*)

**ステップ 11** 選択したオプション ボタンのフィールドに情報を入力します。たとえば、**IP Subnet** を選択した場合は、フィールドに IP アドレスとサブネット マスクを入力します。

**ステップ 12** **Next** をクリックします。

ウィンドウにモニタリング属性のフィールドが表示されます。

**ステップ 13** モニタの対象とする回線の属性のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 14** **Finish** をクリックします。

Lines Monitoring ペインに、選択した情報が表示されます。

---

#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## パフォーマンス モニタリングの概要

Cisco CallManager ソフトウェアのパフォーマンスをモニタするには、オブジェクトのカウンタを選択します。フォルダを展開すると、各オブジェクトのカウンタが表示されます。パフォーマンス モニタリングの手順については、次の項を参照してください。

- [Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加 \(P.12-63\)](#)
- [カウンタのアラート通知の設定 \(P.12-67\)](#)
- [カウンタの詳細表示 \(P.12-73\)](#)
- [プロパティの説明の表示 \(P.12-75\)](#)
- [サンプル データの設定 \(P.12-76\)](#)
- [カウンタ データの表示 \(P.12-78\)](#)
- [モニタからのカウンタの削除 \(P.12-80\)](#)

### 関連項目

- [Microsoft Performance \(P.23-1\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の付録 A 「Cisco CallManager Performance Counters, RTMT, and CISCO-CCM-MIB」

## Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加

システム パフォーマンスの問題に関するトラブルシューティングを行うには、パフォーマンス オブジェクトに関連するカウンタを、そのカウンタの図が表示される RTMT Perfmon Monitoring ペインに追加します。カテゴリ タブには、パフォーマンス カウンタの図を 6 つまで表示できます。

### 始める前に

次の手順を開始する前に、[P.12-2 の「Real-Time Monitoring のロード」](#) の手順を実行してください。

ここでは、RTMT Perfmon Monitoring ペインにカウンタを追加する方法を説明します。



(注) カウンタを選択するには、その名前をダブルクリックするか、または右クリックするか、あるいはそのカウンタをドラッグして **Perfmon Monitoring** ペインにドロップします。カウンタの名前をダブルクリックすると、カウンタ情報が図形式で **RTMT Perfmon Monitoring** ペインに表示されます。カウンタの名前を右クリックすると、メニューが開いて **Add** オプションが表示されます。**Add** を選択すると、カウンタ情報が **RTMT Perfmon Monitoring** ペインに表示されます。次の手順では、任意の方法でデバイスを選択してください。



(注) **RTMT Perfmon Monitoring** ペインの 1 つの図には、カウンタを 3 つまで表示できます。1 つの図に 3 つのカウンタを追加するには、カウンタをクリックして **RTMT Perfmon Monitoring** ペインにドラッグします。それぞれのカウンタについてこの操作を繰り返します。

## 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**View** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Perfmon** をクリックします。

**ステップ 3** 左側のコントローリングセンター ペインの **Perfmon** の下で、**Perfmon Monitoring** アイコンをクリックします。

**Perfmon Monitoring** ウィンドウが表示され、Cisco CallManager クラスタ名を最上位に持つツリー階層が示されます。

**ステップ 4** モニタするカウンタを追加するノードの名前をクリックします。

ツリー階層が展開され、そのノードに含まれるすべてのパフォーマンス オブジェクトが表示されます。



**ステップ 5** モニタするカウンタを含むオブジェクト名の隣にあるファイル アイコンをクリックします。

オブジェクトアイコンが開き、カウンタのリストが表示されます。

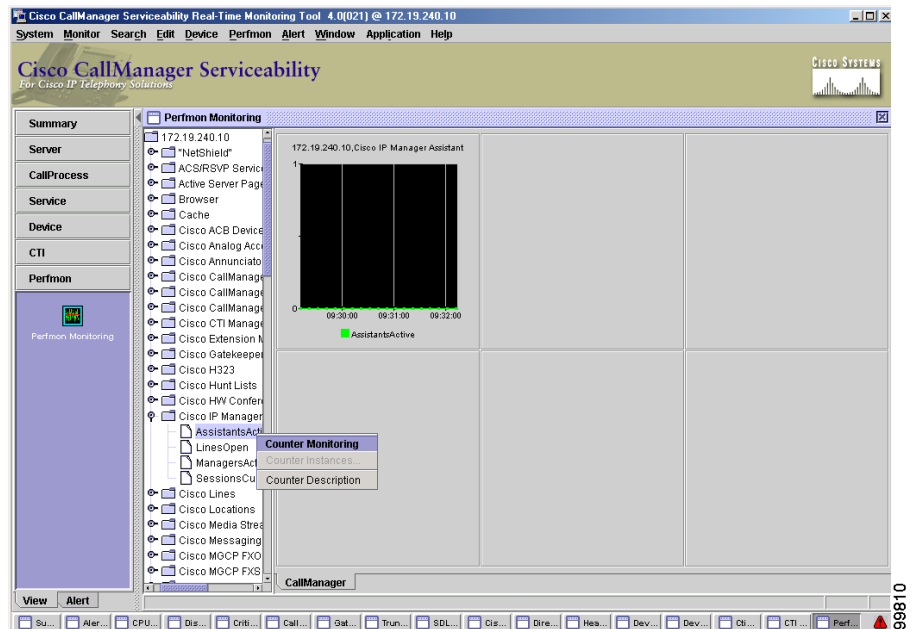
**ステップ 6** モニタするカウンタを選択します。

**ステップ 7** カウンタ名を右クリックします。

**ステップ 8** **Counter Monitoring** をクリックします。

RTMT Perfmon Monitoring ペインにカウンタの図が表示されます。パフォーマンスカウンタ モニタリング図の例については、[図 12-26](#) を参照してください。

**図 12-26** パフォーマンス カウンタの図



### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## 表形式 / 図形式のパフォーマンス カウンタの設定

Cisco CallManager ソフトウェアでは、パフォーマンス カウンタを図や表の形式で表示します。図は、ミニチュアの情報画面に表示されます。作成したカテゴリタブごとに、6 つまでの図が、RTMT Perfmon Monitoring ペインに表示されます。デフォルトでの表示は図形式なので、表示を表形式に変更するには、カテゴリを作成するときにパフォーマンス カウンタを表形式の表示用に設定します。

ここでは、Perfmon Monitoring ペインを表形式に設定する方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1 左側のコントローリング センター ペインで、**View** タブをクリックします。
  - ステップ 2 **Perfmon** をクリックします。
  - ステップ 3 左側のコントローリング センター ペインの **Perfmon** の下で、**Perfmon Monitoring** アイコンをクリックします。
  - ステップ 4 RTMT メニューバーで、**Edit > New Tab** の順に選択します。
  - ステップ 5 Enter tab name フィールドにタブ名を入力します。
  - ステップ 6 パフォーマンス カウンタを表形式で表示する場合は、Present Data in Table View チェックボックスをオンにします。図形式で表示する場合はこのチェックボックスをオフにします。
  - ステップ 7 **OK** ボタンをクリックします。

指定した名前の付いた新規タブが RTMT ペインの下部に表示されます。

- ステップ 8** モニタするオブジェクトおよびパフォーマンス オブジェクトを選択します。  
[P.12-63 の「Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加」](#)を参照してください。
- 

#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## カウンタのアラート通知の設定

カウンタに関するアラート通知を設定する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

次の手順を開始する前に、[P.12-63 の「Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加」](#) の手順を実行してください。

#### 手順

---

- ステップ 1** カウンタの図または表で、アラート通知を設定するカウンタを右クリックします。
- ステップ 2** **Alert/Threshold** を選択します。
- Alert Properties ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** Enable Alert チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** Severity ドロップダウンリストで、通知する重大度を選択します。
- ステップ 5** Description ボックスに、アラートの説明を入力します。
- ステップ 6** **Next** をクリックします。

**ステップ 7** Alert Properties: Threshold & Duration ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 8** アラートしきい値を上限の値として設定する場合は、Over チェックボックスをオンにします。

**ステップ 9** Over value フィールドに値を入力します。たとえば、進行中のコール数の値を入力します。



---

(注) Over チェックボックスは、Frequency と Schedule の設定パラメータと組み合わせて使用します。

---

**ステップ 10** アラートしきい値を下限の値として設定する場合は、Under チェックボックスをオンにします。

**ステップ 11** Under value フィールドに値を入力します。たとえば、進行中のコール数の値を入力します。



---

(注) Under チェックボックスは、Frequency と Schedule の設定パラメータと組み合わせて使用します。

---

Value Calculated As information ボックスで、次のオプション ボタンのいずれかを選択します。

- Absolute
- Delta (curr - prev)
- Delta Percentage ((curr - prev)/prev)

表 12-2 を参照してください。

**ステップ 12** 値が特定の期間（秒単位）に常にしきい値を下回るまたは上回る場合に限りアラート通知が必要な場合は、Duration 情報ボックスの最初のオプション ボタンを選択し、アラートを送信するまでの秒数を入力します。

**ステップ 13** アラート通知をすぐに送信する場合は、Trigger alert immediately オプション ボタンを選択します。

**ステップ 14** Next をクリックします。

Alert Properties: Frequency & Schedule ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 15** しきい値に達したときにポーリングごとにアラート通知をアクティブにする場合は、trigger alert on every poll オプション ボタンをクリックします。

進行中のコール数がしきい値を上回るか下回る状態が続いても、アラート通知は再び送信されません。しきい値が正常（進行中のコール数が 50 ～ 100）になると、アラート通知が非アクティブになります。ただし、しきい値が再びしきい値を上回るか下回ると、アラート通知は再度アクティブになります。

**ステップ 16** 特定の間隔でアラート通知をアクティブにする場合は、2 番目のオプション ボタンを選択し、送信するアラート数、およびアラートの送信期間（分単位）を入力します。

**ステップ 17** 1 日 24 時間アラートをトリガーする場合は、24-hours daily オプション ボタンを選択します。

**ステップ 18** 特定の時間枠内でアラート通知をアクティブにする場合は、2 番目のオプション ボタンを選択し、開始時刻と停止時刻を入力します。

**ステップ 19** Next をクリックします。

Alert Properties: Email Notification ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 20** アラートとして電子メール メッセージを送信する場合は、Enable Email チェックボックスをオンにします。

**ステップ 21** すでに設定されているアラート アクションをトリガーする場合は、Trigger Alert Action 情報ボックスのドロップダウン リストから目的のアラート アクションを選択します。

**ステップ 22** アラートに新しいアラート アクションを設定する場合は、**Configure** をクリックします。



(注) 指定したアラートがトリガーされるたびに、そのアラート アクションが送信されます。

Alert Action ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 23** 新しいアラート アクションを追加するには、**Add** をクリックします。

Action Configuration ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 24** Name フィールドに、アラート アクションの名前を入力します。

**ステップ 25** Description フィールドに、アラート アクションの説明を入力します。

**ステップ 26** アラート アクションの新しい電子メール受信者を追加するには、**Add** をクリックします。

Input ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 27** アラート アクション通知を受信する受信者の電子メールまたは電子ページのアドレスを入力します。

**ステップ 28** **OK** をクリックします。

Recipient リストに、受信者のアドレスが表示されます。Enable チェックボックスがオンになります。

**ステップ 29** 受信者のアドレスを使用不可にするには、Enable チェックボックスをオフにします。



(注) Recipient リストから受信者のアドレスを削除するには、そのアドレスを強調表示し、**Delete** をクリックします。この操作により、受信者のアドレスが削除されます。

ステップ 30 **OK** をクリックします。

ステップ 31 追加したアラート アクションが Action List に表示されます。



(注) Action List からアラート アクションを削除するには、そのアラート アクションを強調表示し、**Delete** をクリックします。**Edit** をクリックして、既存のアラート アクションを編集することもできます。

**Close** をクリックします。

ステップ 32 User-defined email text ボックスに、電子メール メッセージに表示するテキストを入力します。

ステップ 33 **Activate** をクリックします。

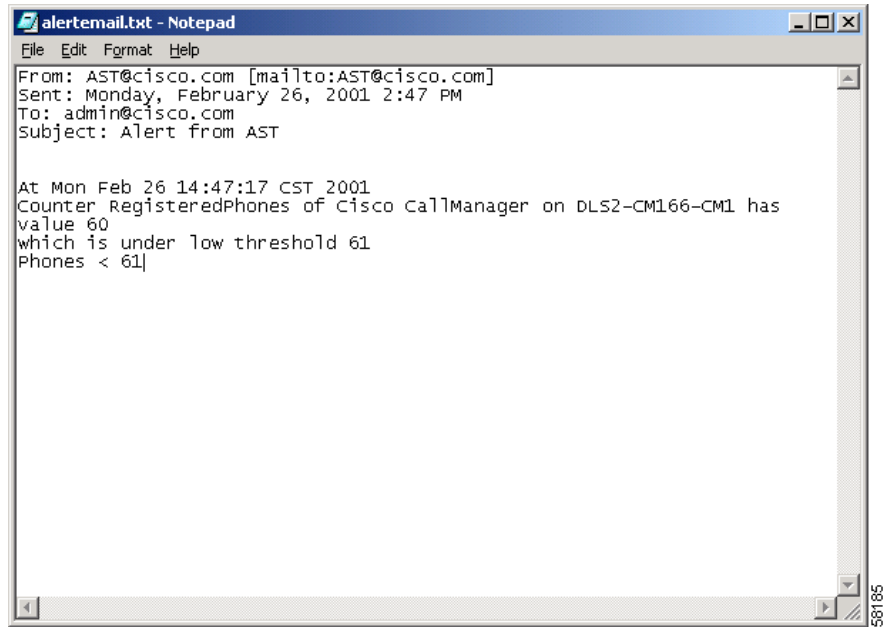


(注) アラート設定情報を変更する場合は、< **Back** ボタンまたは **Cancel** ボタンをクリックします。

図 12-27 は、RegisteredPhones が下限しきい値を下回った場合にシステム管理者に送信されるアラート電子メールの例です。

表 12-3 は、カウンタのアラート設定パラメータの説明です。

図 12-27 アラート通知の電子メール



#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」



## カウンタの詳細表示

パフォーマンス カウンタの詳細を表示するには、RTMT Perfmon Monitoring ペインのパフォーマンス モニタ カウンタを詳細表示します。

### 始める前に

次の手順を開始する前に、[P.12-63](#) の「[Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加](#)」の手順を実行してください。

ここでは、カウンタに関するモニタリング情報を表示する方法を説明します。

### 手順

---

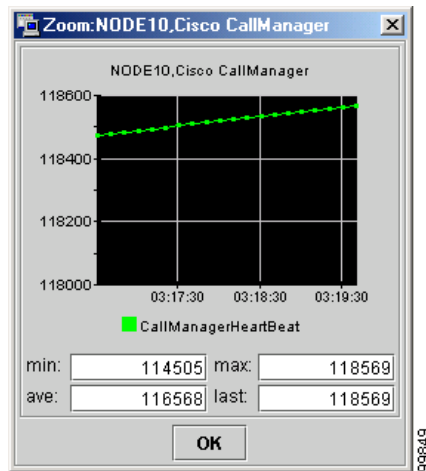
**ステップ 1** RTMT Performance Monitoring ペイン内で、詳細を表示するカウンタを右クリックします。

**ステップ 2** **Zoom** を選択します。

Zoom ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** カウンタのモニタリングが開始されてからの、カウンタの最小、最大、平均、および最新の値のフィールドが表示されます。Zoom ウィンドウの例については、[図 12-28](#) を参照してください。

図 12-28 Zoom ウィンドウ



ステップ 4 **OK** ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。

#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## カウンタのプロパティの概要

カウンタのプロパティには、2 つの機能があります。1 つはカウンタの説明を表示する機能で、もう 1 つはデータ サンプリング パラメータを設定する機能です。

カウンタの説明を表示する、サンプル データを設定する、およびカウンタ データを表示する場合は、次の手順を参照してください。

- [プロパティの説明の表示 \(P.12-75\)](#)
- [サンプル データの設定 \(P.12-76\)](#)
- [カウンタ データの表示 \(P.12-78\)](#)

## プロパティの説明の表示

カウンタの説明を表示するには、次のどちらかの方法を使います。

- **Perfmon Monitoring** ペイン内でカウンタを右クリックすると、カウンタの説明だけが表示されます。
- **RTMT Perfmon Monitoring** ペイン内でカウンタの図を右クリックすると、説明が表示されます。またデータ サンプリング パラメータを設定できます。

### 始める前に

次の手順を開始する前に、[P.12-63](#) の「[Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加](#)」の手順を実行してください。

カウンタのプロパティの説明を表示する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** RTMT Perfmon Monitoring ペイン内で、プロパティ情報を表示するカウンタを右クリックします。

**ステップ 2** **Counter Description** を選択します。

Counter Property ウィンドウにカウンタの説明が表示されます。説明には、ホスト アドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、カウンタの機能の要旨などがあります。

**ステップ 3** **OK** ボタンをクリックして、Counter Property ウィンドウを閉じます。

---

#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## サンプル データの設定

Counter Property ウィンドウには、カウンタのサンプル データを設定するためのオプションがあります。RTMT Perfmon Monitoring ペインに表示されるパフォーマンス カウンタには、緑のドットがあり、サンプル データがある期間存在していることを示します。収集するサンプル データの数と、図に表示されるデータポイント数を設定できます。サンプル データを設定した後、View All Data/View Current Data メニュー選択項目を使用して情報を表示します。P.12-78 の「[カウンタデータの表示](#)」を参照してください。

#### 始める前に

次の手順を開始する前に、P.12-63 の「[Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加](#)」の手順を実行してください。

ここでは、カウンタに対して収集するサンプル データの数を設定する方法を説明します。

#### 手順

---

**ステップ 1** RTMT Perfmon Monitoring ペイン内で、サンプル データ情報を表示するカウンタの図を右クリックします。

ステップ 2 **Monitoring Properties** を選択します。

Counter Property ウィンドウに、カウンタの説明、およびサンプル データ設定用のタブが表示されます。説明には、ホストアドレス、カウンタが属するオブジェクト、カウンタ名、カウンタの機能の要旨などがあります。



---

(注) カウンタの図を右クリックし、RTMT メニューバーで **Perfmon > Monitoring Properties** の順にクリックすることにより、Counter Property ウィンドウを表示することもできます。

---

ステップ 3 カウンタのサンプル データ数を設定するには、**Data Sample** タブをクリックします。

ステップ 4 **No. of data samples** ドロップダウン メニューの下向き矢印をクリックします。

ステップ 5 サンプル数を選択します (100 ~ 1000)。デフォルトは 100 です。

ステップ 6 **No. of data points shown on chart** ドロップダウン メニューの下向き矢印をクリックします。

ステップ 7 図に表示されるデータ ポイントの数を選択します (10 ~ 50)。デフォルトは 20 です。

ステップ 8 表 12-2 で説明されているパラメータのいずれかをクリックします。

表 12-2 サンプル データ パラメータ

パラメータ	説明
Absolute	一部のカウンタ値は累積値なので（例：CallsAttempted や CallsCompleted）、データの現在の状況を表示するには Absolute を選択します。
Delta	現在のカウンタ値と直前のカウンタ値の差を表示するには、Delta を選択します。
% Delta	カウンタのパフォーマンスの変化をパーセントで表示するには、% Delta を選択します。

ステップ 9 **OK** ボタンをクリックして、Counter Property ウィンドウを閉じ、RTMT Perfmon Monitoring ペインに戻ります。

#### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## カウンタ データの表示

パフォーマンス カウンタを表示するために収集したデータを表示するには、モニタ用のデータを表示するオプションを使用します。サンプル データの設定方法については、[P.12-75](#) の「カウンタのプロパティの概要」を参照してください。

#### 始める前に

次の手順を開始する前に、[P.12-63](#) の「Perfmon カテゴリを使用したモニタへのカウンタの追加」の手順を実行してください。

ここでは、パフォーマンス カウンタ用のすべてのデータ、および現在のデータを表示する方法を説明します。

## 手順

**ステップ 1** RTMT Perfmon Monitoring ペイン内で、サンプル データを表示するカウンタの図を右クリックします。

**ステップ 2** **View All Data** を選択します。

サンプリングされたデータはカウンタの図にすべて表示されます。緑のドットはきわめて密に隣り合せて表示されるため、ほとんど実線のように見えます。

**ステップ 3** 現在表示されているカウンタを右クリックします。

**ステップ 4** **View Current** を選択します。

最後に設定および収集されたサンプル データが、カウンタの図に表示されます。サンプル データの設定手順については、[P.12-76](#) の「[サンプル データの設定](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『*Cisco CallManager Serviceability System Guide*』の第 9 章「[Real-Time Monitoring Tool](#)」

## モニタからのカウンタの削除

カウンタが必要なくなったときは、RTMT Perfmon Monitoring ペインからカウンタを削除できます。

ここでは、ウィンドウからカウンタを削除する方法を説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** RTMT Perfmon Monitoring ペイン内で、削除するカウンタを右クリックします。

**ステップ 2** **Remove** を選択します。

そのカウンタはウィンドウに表示されなくなります。

---

### 関連項目

- [RTMT ウィンドウのコンポーネント \(P.12-11\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」



## Alert タブの Alert Central の概要

RTMT には、あらかじめ設定されているアラートとユーザ定義のアラートという 2 つの種類のアラートがあります。どちらの種類のアラートも設定できます。ただし、あらかじめ設定されているアラートは削除できませんが、ユーザ定義のアラートは追加および削除できます。また、あらかじめ設定されているアラートもユーザ定義のアラートも RTMT で使用不可にすることができます。

あらかじめ設定されているアラートの完全なリスト、アラートのカスタマイゼーション、およびアラートを設定できるアラートアクションフィールドについては、『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」を参照してください。

アクティブにされているサービスが稼働状態から停止状態になると、RTMT によりアラートが生成されます。Alert タブの Alert Central を使用して、RTMT によって生成されるアラートの状況と履歴を表示できます。

RTMT ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーの Alert メニュー（またはコンテキストメニュー）を Alert Central とともに使用して、次のタスクを実行できます。

- **Access Alert Central** : このメニュー項目を使用すると、Alert Central モニタリング ウィンドウを開き、RTMT アラートの状況と履歴を表示できます。アラートをソートすることもできます。P.12-82 の「Alert Central でのアラートの表示とソート」を参照してください。
- **Set alert properties** : このメニュー項目を使用すると、アラートのアラートプロパティを設定できます。P.12-85 の「アラートプロパティの設定」を参照してください。
- **Remove an alert** : このメニュー項目を使用すると、ユーザ定義のアラートを削除できます。P.12-95 の「アラートの削除」を参照してください。
- **Enable an alert** : このメニュー項目を使用すると、Cisco CallManager ノードまたはクラスタ全体のアラートを使用可能にすることができます。P.12-97 の「アラートの有効化」を参照してください。
- **Disable an alert** : このメニュー項目を使用すると、Cisco CallManager ノードまたはクラスタ全体のアラートを使用不可にすることができます。P.12-98 の「アラートの無効化」を参照してください。

## ■ Alert タブの Alert Central の概要

- **Suspend alerts** : このメニュー項目を使用すると、Cisco CallManager ノードまたはクラスタ全体のアラートを一時的に停止できます。P.12-99 の「[Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止](#)」を参照してください。
- **Clear an alert** : このメニュー項目を使用すると、解決されたアラートをクリア（リセット）できます。P.12-101 の「[アラートのクリア](#)」を参照してください。
- **Clear all alerts** : このメニューを使用すると、解決されたすべてのアラートをクリアできます。P.12-101 の「[アラートのクリア](#)」を参照してください。
- **View alert event details** : このメニュー項目を使用すると、アラートイベントの詳細を表示できます。P.12-102 の「[アラートイベントの詳細の表示](#)」を参照してください。
- **Configure e-mails for alerts** : このメニュー項目を使用すると、アラートに関する通知を受信する受信者の電子メールを設定できます。P.12-104 の「[アラート通知用電子メールの設定](#)」を参照してください。
- **Configure alert actions** : このメニュー項目を使用すると、電子メール受信者に送信する特定のアラートアクションを設定できます。P.12-106 の「[アラートアクションの設定](#)」を参照してください。

## Alert Central でのアラートの表示とソート

RTMT の Alert タブを使用すると、RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成するあらゆるアラートの状況を表示できます。アラートの状況を表示する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

次の手順を開始する前に、P.12-2 の「[Real-Time Monitoring のロード](#)」の手順を実行してください。

### 手順

---

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

ステップ 2 Alert Central をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

Alert Central ウィンドウの例については、図 12-29 を参照してください。

図 12-29 Alert Central ウィンドウ

The screenshot shows the Alert Central window with a list of alerts. The 'Alert Status' section contains the following data:

Alert Name	Enabled	InSafeRange	AlertAction	LastAlert Raised
NonCallProcessingNodeCpuPegging	Enabled	Yes	Default	N/A
NumberOfRegisteredGatewaysDecreased	Enabled	No	Default	N/A
LowTcdServerHeartbeatRate	Enabled	No	Default	02:36 PM 08/07/03
LowAvailableMemory	Enabled	Yes	Default	02:30 PM 08/07/03
LowAvailableDiskSpace	Enabled	Yes	Default	01:22 PM 08/07/03
MaliciousCallTrace	Enabled	No	Default	N/A
NumberOfRegisteredMediaDevicesIncreased	Enabled	No	Default	N/A
LowCallManagerHeartbeatRate	Enabled	Yes	Default	N/A
ExcessiveVoiceQualityReports	Enabled	Yes	Default	N/A
CodeYellow	Enabled	Yes	Default	01:22 PM 08/07/03
MgcpDChannelOutOfService	Enabled	Yes	Default	N/A
DirectoryConnectionFailed	Enabled	Yes	Default	N/A
CriticalServiceDown	Enabled	No	Default	02:36 PM 08/07/03
DirectoryReplicationFailed	Enabled	Yes	Default	N/A
NumberOfRegisteredGatewaysIncreased	Enabled	No	Default	N/A
LowFTPServiceHeartbeatRate	Enabled	No	Default	02:36 PM 08/07/03
NumberOfRegisteredMediaDevicesDecreased	Enabled	No	Default	N/A
NumberOfRegisteredPhonesDropped	Enabled	No	Default	N/A
CallProcessingNodeCpuPegging	Enabled	Yes	Default	N/A
RouteListExhausted	Enabled	Yes	Default	N/A
MediaListExhausted	Enabled	Yes	Default	N/A

The 'Alert History' section shows the following data:

Time Stamp	Node	AlertName	Severity	SentTo	Description
02:36 PM 08/07/03	NODE11	CriticalServiceDown	Warning		At 12:36:13 on 08/07/2003 on node h
02:36 PM 08/07/03	NODE11	LowFTPServiceHeartbeatRate	Warning		At 12:36:13 on 08/07/2003 on node h
02:36 PM 08/07/03	NODE11	LowTcdServerHeartbeatRate	Warning		At 12:36:13 on 08/07/2003 on node h

Alert Status ウィンドウ内でアラート状況をソートできます。

ステップ 3 Alert Status ウィンドウ内でアラート名を A ~ Z のアルファベット順にソートするには、Alert Name 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

ステップ 4 Alert Status ウィンドウ内でアラート名を Z ~ A のアルファベット順にソートするには、Alert Name 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。

## ■ Alert タブの Alert Central の概要

- ステップ 5** Alert Status ウィンドウ内で Enabled/Disabled 状況に従ってソートするには、Enabled 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 6** Alert Status ウィンドウ内で、アラートが安全範囲内であるかどうかによってソートするには、InSafeRange 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 7** Alert Status ウィンドウ内でアラート アクションがデフォルトであるかユーザ定義であるかによってソートするには、AlertAction 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 8** Alert Status ウィンドウ内でアラートの発生時刻によってソートするには、Last Alert Raised 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- Alert History ウィンドウ内でアラート履歴をソートすることもできます。
- ステップ 9** Alert History ウィンドウ内でアラートのタイム スタンプによってソートするには、Time Stamp 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 10** Alert History ウィンドウ内でノード名によってソートするには、Node 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 11** Alert History ウィンドウ内でアラート名を A ~ Z の順にソートするには、AlertName 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 12** Alert History ウィンドウ内でアラートの重大度によってソートするには、Severity 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 13** Alert History ウィンドウ内で電子メール受信者によってソートするには、SentTo 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- ステップ 14** Alert History ウィンドウ内でアラートの説明によってソートするには、Description 列で上向き矢印または下向き矢印をクリックします。



(注) ウィンドウに表示されていないアラート履歴を表示するには、Alert History ウィンドウの右側にあるスクロールバーを使用します。

### 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## アラート プロパティの設定

アラートプロパティを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順


**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Alert Status ウィンドウで、アラート プロパティを設定するアラートを強調表示します。

**ステップ 4** アラート名を右クリックし、**Set Alert/Properties** を選択します。

 [図 12-30](#) を参照してください。

## Alert タブの Alert Central の概要

図 12-30 Set Alert/Properties

Alert Status :	
Alert Name	Ena
CallProcessingNodeCpuPegging	Enabled
CodeYellow	Enabled
CriticalServiceDown	Enabled
DirectoryConnectionFailed	Enabled
DirectoryReplicationFailed	Enabled
ExcessiveVoiceQualityReports	Enabled
LowAvailableDiskSpace	Enabled
LowAvailableMemory	Enabled
LowCallManagerHeartbeatRate	ed
LowTcdServerHeartbeatRate	ed
LowTFTPServerHeartbeatRate	ed
MaliciousCallTrace	ed
MediaListExhausted	ed
MgcpDChannelOutOfService	Enabled
NonCallProcessingNodeCpuPegging	Enabled

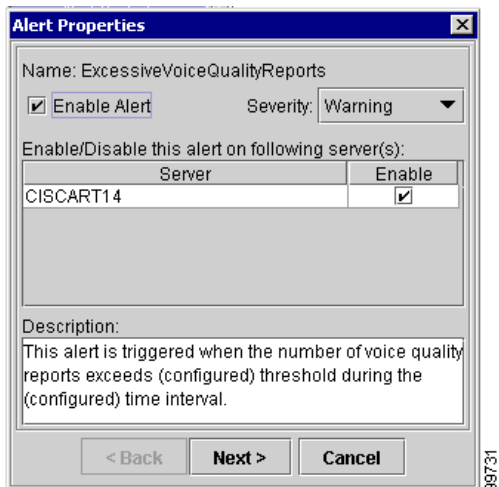
99727



(注) アラートを強調表示し、RTMT ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーで **Alert > Set Alert/Properties** の順に選択することにより、Set Alert/Properties ウィンドウを開くこともできます。

Alert Properties ウィンドウが表示されます。図 12-31 に、ExcessiveVoiceQualityReports アラートの Alert Properties ウィンドウの例を示します。

図 12-31 Alert Properties ウィンドウ



(注) Cisco CallManager のクラスタ全体のアラートの場合は、Alert Properties ウィンドウに Enable/Disable this alert on following server(s): ボックスが表示されません。クラスタ全体のアラートには、登録済みの電話機の数、ゲートウェイの数、メディアデバイスの数、すべて使用されたルートリスト、すべて使用されたメディアリスト、稼働していない MGCP D チャネル、悪意のあるコールのトレース、および限度を超えている品質レポートが含まれます。

- ステップ 5** アラートを使用可能にするには、Enable Alert チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** Severity ドロップダウン リストから、アラートの重大度を選択します。
- ステップ 7** Enable/Disable this alert on following server(s) ボックスで、このアラートを有効にするサーバの Enable チェックボックスをオンにします。

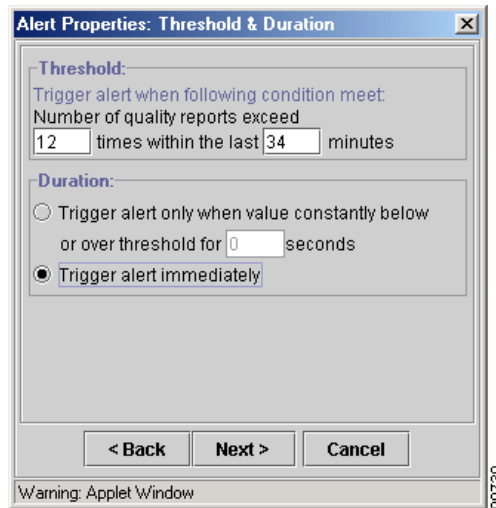
あらかじめ設定されているアラートである場合、Description 情報ボックスにアラートの説明が表示されます。

## Alert タブの Alert Central の概要

ステップ 8 **Next** をクリックします。

Alert Properties: Threshold & Duration ウィンドウが表示されます。図 12-32 を参照してください。

図 12-32 Threshold & Duration ウィンドウ



ステップ 9 Threshold 情報ボックスに、アラートがトリガーされる条件を入力します。

ステップ 10 値が特定の期間（秒単位）に常にしきい値を下回るまたは上回る場合に限りアラートをトリガーする場合は、Duration 情報ボックスの最初のオプション ボタンを選択し、秒数を入力します。

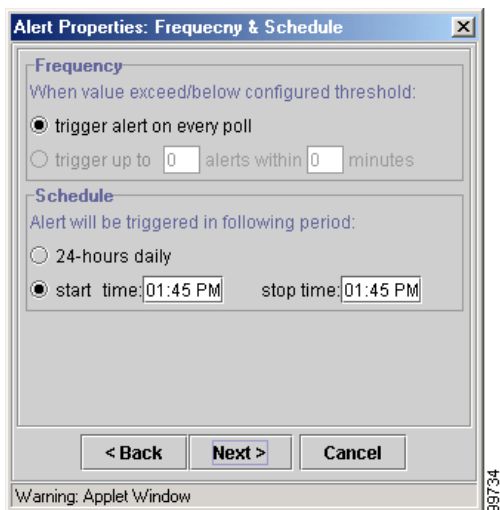
ステップ 11 アラートをすぐにトリガーする場合は、2 番目のオプション ボタンを選択します。

ステップ 12 **Next** をクリックします。

Alert Properties: Frequency & Schedule ウィンドウが表示されます。図 12-33 を参照してください。



図 12-33 Frequency &amp; Schedule ウィンドウ



**ステップ 13** ポーリングごとにアラートをトリガーする場合は、Frequency 情報ボックスの最初のオプション ボタンを選択します。

**ステップ 14** 特定の期間内（分単位）に特定の数のアラートをトリガーする場合は、2 番目のオプション ボタンを選択し、情報を入力します。

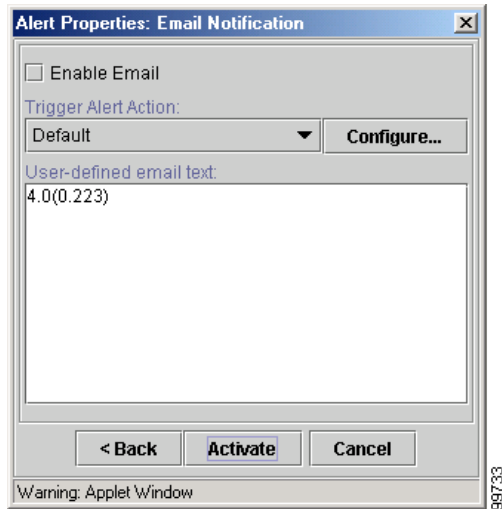
**ステップ 15** 1 日 24 時間アラートをトリガーする場合は、Schedule 情報ボックスの最初のオプション ボタンを選択します。

**ステップ 16** 特定の開始時刻と停止時刻の間にアラートをトリガーする場合は、2 番目のオプション ボタンを選択し、開始時刻と停止時刻を入力します。

**ステップ 17** **Next** をクリックします。

Alert Properties: Email Notification ウィンドウが表示されます。図 12-34 を参照してください。

図 12-34 Email Notification ウィンドウ



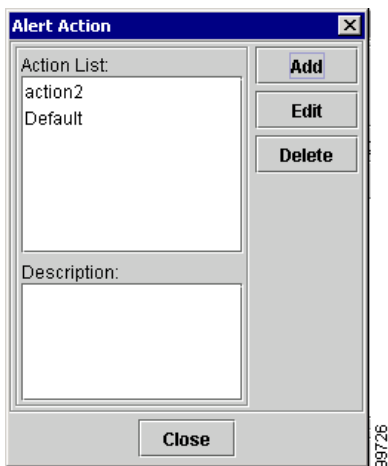
**ステップ 18** このアラートの電子メールを使用可能にする場合は、Enable Email チェックボックスをオンにします。

**ステップ 19** このアラートでアラートアクションをトリガーするには、ドロップダウンリストから、送信するアラートアクションを選択します。

**ステップ 20** 新しいアラートアクションを設定する場合、または既存のアラートアクションを編集する場合は、**Configure** をクリックします。

Alert Action ウィンドウが表示されます。図 12-35 を参照してください。

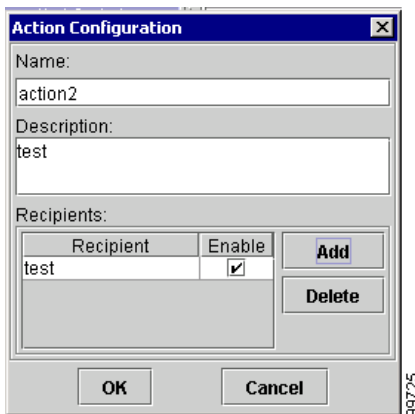
図 12-35 Alert Action ウィンドウ



ステップ 21 新しいアラート アクションを追加するには、**Add** をクリックします。

Action Configuration ウィンドウが表示されます。図 12-36 を参照してください。

図 12-36 Action Configuration ウィンドウ



## Alert タブの Alert Central の概要

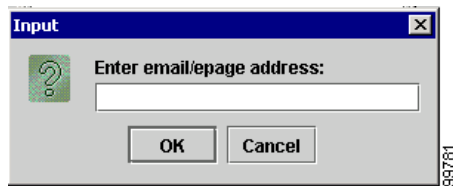
ステップ 22 Name フィールドに、アラートアクションの名前を入力します。

ステップ 23 Description フィールドに、アラートアクションの説明を入力します。

ステップ 24 電子メール受信者を追加するには、**Add** をクリックします。

Input ウィンドウが表示されます。図 12-37 を参照してください。

図 12-37 Input ウィンドウ

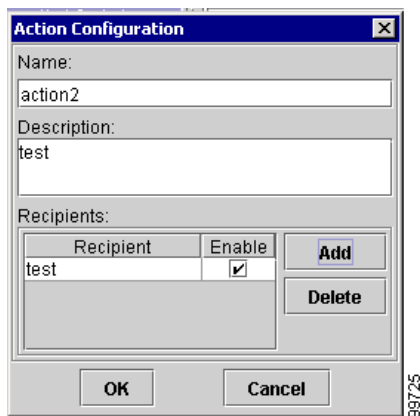


ステップ 25 Enter email/epage address フィールドに、アラートアクションを受信する受信者の電子メールまたは電子ページのアドレスを入力します。

ステップ 26 **OK** をクリックします。

Action Configuration ウィンドウが再び表示されます。このウィンドウでは、追加した受信者が表示され、その Enable チェックボックスがオンになっています。図 12-38 を参照してください。

図 12-38 Action Configuration ウィンドウ (結果)



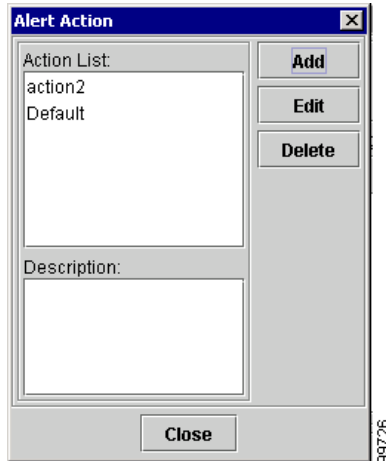
**ステップ 27** 受信者を削除するには、その受信者を強調表示し、**Delete** をクリックします。

選択した受信者が、受信者リストから削除されます。

**ステップ 28** すべての受信者を追加したら、**OK** をクリックします。

Action List に新しいアクションが表示されます。図 12-39 を参照してください。

図 12-39 Alert Action List



ステップ 29 既存のアラートアクションを編集するには、アラートアクションを強調表示し、**Edit** をクリックします。

選択したアラートアクションの Action Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 30 必要な変更を加えて、**OK** をクリックします。

ステップ 31 必要な変更をすべて加えたら、**Close** をクリックします。

Alert Properties: Email Notification ウィンドウが再び表示されます。

ステップ 32 **Activate** をクリックします。



(注) アラートアクションを削除するには、そのアクションを強調表示し、**Delete** をクリックして、**Close** をクリックします。

## 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの有効化 \(P.12-97\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)
- [アラートのクリア \(P.12-101\)](#)
- [アラート イベントの詳細の表示 \(P.12-102\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [アラートアクションの設定 \(P.12-106\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## アラートの削除

Alert Central ペインからアラートを削除する手順は、次のとおりです。



(注) ユーザ定義のアラートに限り、Alert Central から削除できます。

## 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Alert Status ウィンドウで、削除するアラートを強調表示します。

ステップ 4 アラート名を右クリックし、**Remove Alert** を選択します。



(注) アラートを強調表示し、RTMT ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーで **Alert > Remove Alert** の順に選択することにより、アラートを削除することもできます。

選択したアラートが、Alert Central ペインの Alert Status から削除されます。

### 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの有効化 \(P.12-97\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)
- [アラートのクリア \(P.12-101\)](#)
- [アラートイベントの詳細の表示 \(P.12-102\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [アラートアクションの設定 \(P.12-106\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」



## アラートの有効化

Alert Central でアラートを使用可能にする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Alert Status ウィンドウで、使用可能にするアラートを強調表示します。

**ステップ 4** アラート名を右クリックし、**Enable Alert** を選択します。



(注) アラートを強調表示し、RTMT ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーで **Alert > Enable Alert** の順に選択することにより、アラートを使用可能にすることもできます。

Alert Status ウィンドウの Enabled 列で、選択したアラートが Enabled と表示されます。

### 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)

## ■ Alert タブの Alert Central の概要

- アラートのクリア (P.12-101)
- アラートイベントの詳細の表示 (P.12-102)
- アラート通知用電子メールの設定 (P.12-104)
- アラートアクションの設定 (P.12-106)
- カウンタのアラート設定値 (P.12-108)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## アラートの無効化

Alert Central でアラートを使用不可にする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** 左側のコントローリング センター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Alert Status ウィンドウで、使用不可にするアラートを強調表示します。

**ステップ 4** アラート名を右クリックし、**Disable Alert** を選択します。



---

(注) アラートを強調表示し、RTMT ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーで **Alert > Disable Alert** の順に選択することにより、アラートを使用不可にすることもできます。

---

Alert Status ウィンドウの Disabled 列で、選択したアラートが Disabled と表示されます。

---

## 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの有効化 \(P.12-97\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)
- [アラートのクリア \(P.12-101\)](#)
- [アラートイベントの詳細の表示 \(P.12-102\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [アラートアクションの設定 \(P.12-106\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止

特定の Cisco CallManager ノードまたはクラスタ全体で、一部のアラートまたはすべてのアラートを一時的に停止する必要がある場合があります。たとえば、Cisco CallManager を新しいリリースにアップグレードする場合、アップグレードが完了するまですべてのアラートを一時停止する必要があります。アラートを一時停止することにより、アップグレード中に電子メールや電子ページを受信しなくなります。Alert Central でアラートを一時停止する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

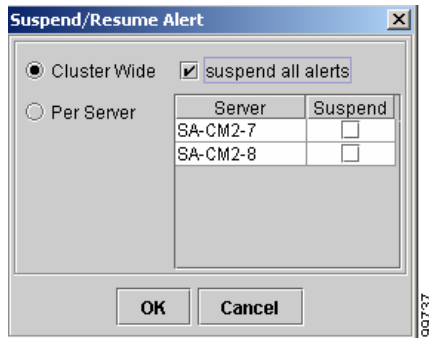
RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

## Alert タブの Alert Central の概要

**ステップ 3** ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーで、**Alert > Suspend cluster/node Alerts** の順に選択します。

Suspend/Resume Alert ウィンドウが表示されます。図 12-40 を参照してください。

図 12-40 Suspend/Resume Alert ウィンドウ



(注) サーバごとの一時停止状況は、Cisco CallManager クラスタ全体のアラートには適用されません。

**ステップ 4** クラスタ内のすべてのアラートを一時停止するには、**Cluster Wide** オプション ボタンを選択し、**suspend all alerts** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** サーバごとにアラートを一時停止するには、**Per Server** オプション ボタンを選択し、アラートを一時停止するサーバの **Suspend** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** **OK** をクリックします。



(注) アラートを再開するには、再び **Alert > Suspend cluster/node Alerts** の順に選択し、suspend チェックボックスをオフにします。

### 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [アラートのクリア \(P.12-101\)](#)
- [アラートイベントの詳細の表示 \(P.12-102\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [アラートアクションの設定 \(P.12-106\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## アラートのクリア

アラートの解決後に個々のアラートまたはすべてのアラートをクリアする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

## ■ Alert タブの Alert Central の概要

**ステップ 3** アラートの解決後に個々のアラートをクリア (リセット) するには、Alert Status ウィンドウで、クリアするアラートを強調表示します。

**ステップ 4** Alert ドロップダウンメニューから、**Clear Alert** を選択します。

選択したアラートの色が赤から黒に変わります。

**ステップ 5** すべてのアラートをクリア (リセット) するには、Alert ドロップダウンメニューから **Clear All Alerts** を選択します。

すべてのアラートの色が赤から黒に変わります。

---

**関連項目**

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの有効化 \(P.12-97\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)
- [アラートイベントの詳細の表示 \(P.12-102\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [アラートアクションの設定 \(P.12-106\)](#)

**アラート イベントの詳細の表示**

アラート イベントの詳細を表示する手順は、次のとおりです。

**手順**

**ステップ 1** 左側のコントローリングセンター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

ステップ 2 **Alert Central** をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Alert Status ウィンドウで、詳細を表示するアラートを強調表示します。

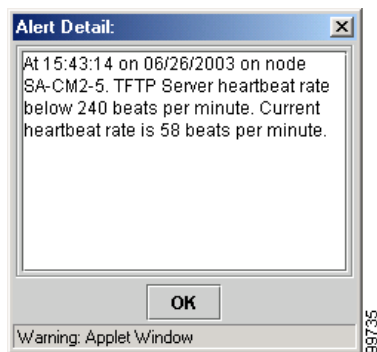
ステップ 4 アラート名を右クリックし、**Alert Detail** を選択します。



(注) アラートを強調表示し、RTMT ウィンドウの上部にある RTMT メニューバーで **Alert > Alert Events Detail** の順に選択することにより、アラートイベントの詳細を表示することもできます。

Alert Detail ウィンドウが表示されます。図 12-41 を参照してください。

図 12-41 Alert Detail ウィンドウ



ステップ 5 アラートの詳細を確認したら、**OK** をクリックします。

### 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの有効化 \(P.12-97\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)
- [アラートのクリア \(P.12-101\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## アラート通知用電子メールの設定

アラート通知用の電子メールを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** 左側のコントローリング センター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

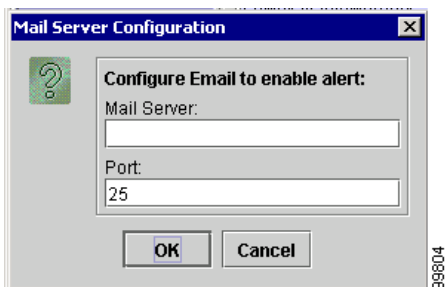
RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** このペインの上部にある RTMT メニューバーで、**Alert > Config Email Server** の順に選択します。

Mail Server Configuration ウィンドウが表示されます。[図 12-42](#) を参照してください。



図 12-42 Mail Server Configuration ウィンドウ



ステップ 4 Mail Server フィールドに、電子メールの受信者の情報を入力します。

ステップ 5 Port フィールドに、受信者のポート番号を入力します。

ステップ 6 **OK** をクリックします。

#### 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの有効化 \(P.12-97\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)
- [アラートのクリア \(P.12-101\)](#)
- [アラートイベントの詳細の表示 \(P.12-102\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## アラート アクションの設定

新しいアラート アクションを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** 左側のコントローリング センター ペインで、**Alert** タブをクリックします。

**ステップ 2** **Alert Central** をクリックします。

RTMT が Cisco CallManager クラスタ内で生成したアラートの状況と履歴を示す Alert Central モニタリング ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** このペインの上部にある RTMT メニューバーで、**Alert > Config Alert Action** の順に選択します。

Alert Action ウィンドウが表示されます。図 12-43 を参照してください。

図 12-43 Alert Action ウィンドウ



ステップ 4 P.12-85 の「アラートプロパティの設定」のステップ 21 ～ステップ 32 の手順を実行して、アラートアクションを追加、編集、または削除します。

---

### 関連項目

- [Alert タブの Alert Central の概要 \(P.12-81\)](#)
- [Alert Central でのアラートの表示とソート \(P.12-82\)](#)
- [アラートプロパティの設定 \(P.12-85\)](#)
- [アラートの削除 \(P.12-95\)](#)
- [アラートの有効化 \(P.12-97\)](#)
- [アラートの無効化 \(P.12-98\)](#)
- [Cisco CallManager ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.12-99\)](#)
- [アラートのクリア \(P.12-101\)](#)
- [アラートイベントの詳細の表示 \(P.12-102\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.12-104\)](#)
- [カウンタのアラート設定値 \(P.12-108\)](#)
- 『Cisco CallManager Serviceability System Guide』の第 9 章「Real-Time Monitoring Tool」

## カウンタのアラート設定値

表 12-3 では、カウンタのアラート設定パラメータについて説明します。

表 12-3 カウンタのアラート設定パラメータ

パラメータ	説明
Over	アラート通知がアクティブになる前に満たされている必要のある最大しきい値を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスのフィールドに入力した値は、カウンタタイプと関連しています（例：進行中のコール数）。
Under	アラート通知がアクティブになる前に満たされている必要のある最小しきい値を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスのフィールドに入力した値は、カウンタタイプと関連しています（例：進行中のコール数）。
Frequency	<p><b>Once</b> オプションを選択すると、下限または上限のカウンタしきい値を超過したときにアラート通知が 1 回アクティブになります。</p> <p><b>Every</b> オプションを選択すると、指定の間隔でカウンタしきい値がチェックされ、アラート通知をアクティブにする必要があるかどうか判定されます。Every オプションの値は、1 ～ 99 秒、分、または時間です。</p>
Daily Task	カウンタしきい値を毎日チェックする場合は、Daily Task チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、毎日の作業の開始時刻と停止時刻を入力します。たとえば、毎日午前 9:00 ～午後 5:00、または 17:00:00 ～午前 9:00 にカウンタがチェックされるように設定できます。

表 12-3 カウンタのアラート設定パラメータ (続き)

パラメータ	説明
Start time	カウンタしきい値のチェックを開始する時刻を設定するには、開始時刻の At オプション ボタンをクリックします。Daily Task チェックボックスがオンでない場合は、date フィールドに日付を入力します。
Stop time	カウンタしきい値のチェックを停止する時刻を設定するには、停止時刻の At オプション ボタンを選択します。Daily Task チェックボックスがオンでない場合は、date フィールドに日付を入力します。

■ カウンタのアラート設定値